

# 行政評価・実施計画補正



---

交流文化部

## 令和7年度 施策評価シート

### 1 施策の位置付け

基本戦略	A	未来共育	戦略分野	1	パートナーシップ・子育て	ありたい姿	一人ひとりや家族の多様性についての理解のもと、家庭環境によらず子どもと家族が応援され、安心して暮らしている
施策	1-2	家族の形を知る機会や出会う機会がある					

### 2 施策指標(KPI)

指標名	基準値		達成値			目標値
	基準年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和8年度
客観 家庭のあり方を考えるための講演会参加者数	60人	R5	51人			100人
主観 多様な家族観や結婚観が尊重される地域であると思う市民の割合	21.8%	R5	21.9%			25.8%

### 3 施策を構成する事務事業

番号	事務事業名	担当課	事業費(千円)			今後の方向性	
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	成果	コスト
1	女性相談事業	社会教育スポーツ課	3,731	4,387	予算対応	拡充	現状維持

### 4 事中評価(事業構成の適正性)

優先する取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・複雑化、多様化する相談に対応するため、相談員の専門性を高め、相談者への支援が適切に行われるよう関係機関との連携を強化する。</li> <li>・高校生啓発ワークショップについては、受講者アンケート結果を生かして内容の改善・充実を図り、効果を高める。</li> </ul>
劣後・見直しする取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業が1つであるため、劣後・見直しする取り組みは無い。</li> </ul>

### 5 事後評価

施策指標の要因分析
—
施策の定性評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性相談に寄せられる相談内容は多岐に渡り、その要因も複雑化していることから、担当課だけで対応することが困難な事例が多く、関係機関との連携をより強化する必要がある。</li> <li>・一部ではあるが、女性相談員への相談が心のよりどころとなり、安心して暮らせる一因となっている。</li> <li>・女性相談は、DV相談等から端を発して福祉分野に関わる事案が多数のため、担当課内で課題を解決するための人的資源が不足している。</li> </ul>

評価者	所属	交流文化部	職名	部長	氏名	上條 史生
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	上村 英文		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	女性相談事業				担当課	社会教育スポーツ課		施策	1-2			
目的	対象	市民						新規/継続	継続			
	意図	女性相談窓口を設置することにより、相談体制の充実を図る。						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○女性相談 ○市内高校生を対象にした啓発ワークショップの実施				○女性相談 ○市内高校生を対象にした啓発ワークショップの実施				○女性相談 ○市内高校生を対象にした啓発ワークショップの実施			
事業費・財源	決算額	(千円)	3,731	予算額	(千円)	4,387	計画額	(千円)	464			
	講師謝礼・費用弁償		118	講師謝礼・費用弁償		375	講師謝礼・費用弁償		375			
	女性相談専用電話料		47	女性相談専用電話料		52	女性相談専用電話料		52			
	その他		101	その他		37	その他		37			
	人件費(会計年度任用職員)		3,465	人件費(会計年度任用職員)		3,923	人件費(会計年度任用職員)					
	特定	1,540	一般	2,191	特定	1,540	一般	2,847	特定	0	一般	464

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	A
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	✓
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性							
成果	拡充		④		②	✓	①
	現状維持		③		⑤		
	縮小		⑥				
	休廃止	⑦					
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大			

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
・市内高校生を対象にしたデートDVワークショップ及び性教育講話は、中学校や高校の授業内容を補完する目的でプログラムを組んでいる。	・女性相談は年々増加傾向にあり、生活困窮や精神疾患に関する相談等も多いことから、福祉事務所との連携が欠かせない。また、DV等により緊急避難を要する場合には、対象者のその後の生活基盤を同時に調整する必要があり、福祉事務所を含めた関係各所との調整に時間を要することから、対応に苦慮している。こうした課題は、当年度も引き続き課題として残っている。	・女性相談の所管について、社会教育系の業務としては著しく異質であるため、事案発生時には担当者が非常に苦慮している。 ・客観的にも、塩尻市以外の県内18市全てで女性相談業務を福祉事務所が所管しており、社会教育系の業務とすることには無理があると考えられることから、新年度に向けて、この業務の所管替えを実施する必要がある。

第1次評価	・女性相談の所管については、状況を鑑みて検討する。	第2次評価	—
-------	---------------------------	-------	---

事務事業名	女性相談事業	課名	社会教育スポーツ課
-------	--------	----	-----------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価) (千円)

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
ワークショップ関連経費(講師謝礼・費用弁償)		375		375		375
女性相談専用電話料		52		52		52
その他		37		37		37
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
人件費(会計年度任用職員)				0		0
事業費合計		464	+0	464	+0	464
財源内訳	国庫支出金	困難な問題を抱える女性支援推進事業費補助金		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	(名称)		0		0
	一般財源		464	+0	464	+0

○ 評価指標

評価指標(単位)	女性相談件数(件)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		196	291	
実績値(事後評価)	494	613		
目標値		500	500	500
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・少子高齢化や核家族化等の進行により、身近に相談相手がいない。 ・相談窓口の周知が図られてきた。			
評価指標(単位)	市内高校生対象啓発ワークショップの満足度割合(%)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		-	-	
実績値(事後評価)	—	93.2		
目標値		80.0	81.0	82.0
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・ワークショップを通じて正しい知識に触れることができていることが、満足度の高さにつながっている。			

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
・高校生が自分自身の身体や周囲との関わり方について学ぶことで、自身や他者を尊重することの重要性について考えるきっかけを作ることを目的に、デートDVワークショップ及び性教育講話を市内2校で実施した。	・デートDVワークショップの事後アンケートでは、身体的な暴力のみをデートDVと認識していたという感想が複数あった。デートDVについて知ることは、加害を防ぐだけでなく、暴力を受けた際に自分が被害にあったことを認識して対応することで、更なる被害を防止する効果が期待できる。 ・性教育講話の事後アンケートでは、性感染症や避妊についての知識を習得できたという感想が多く見受けられた。	・女性相談件数は年々増加傾向にあり、生活困窮や精神疾患に関する相談等も多いことから、福祉事務所との連携が欠かせない。また、DV等により緊急避難を要する場合には、対象者のその後の生活基盤を同時に調整する必要がある。福祉事務所を含めた関係各所との調整に時間を要することから、対応に苦慮している。 ・塩尻市以外の県内18市では、女性相談の所管部署が福祉事務所であることから、組織のあり方を検討する必要がある。

作成担当者	交流文化部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	城戸 葵香	連絡先(内線)	3136
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	上村 英文	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美		

## 令和7年度 施策評価シート

### 1 施策の位置付け

基本戦略	A	未来共育	戦略分野	2	学校教育・学びの環境	ありたい姿	子どもたちがワクワクする学びを自ら発見できるとともに、友人や関わる人たちと共感でき、「塩尻に帰ってきたい」と思う体験ができています
施策	2-4	学校外でも遊び、学び、生活の場などの「居場所」がある					

### 2 施策指標(KPI)

指標名	基準値 基準年度		達成値			目標値
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和8年度		
客観 放課後児童クラブ等の申込に対する充足率	100%	R5	100%			100%
休日部活動の地域移行数(全58部)	-	R5	-			58部
主観 子どもたちが希望するスポーツ・文化芸術活動に参加する機会があると感じる市民の割合	40.3%	R5	39.6%			44.3%

### 3 施策を構成する事務事業

番号	事務事業名	担当課	事業費(千円)			今後の方向性	
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	成果	コスト
1	青少年育成事業	社会教育スポーツ課	7,762	8,288	予算対応	現状維持	現状維持

### 4 事中評価(事業構成の適正性)

優先する取り組み
<p>・地域のつながりが希薄化し、地域の連帯感も弱まりつつある昨今、地域に昭和、平成時代と同様の取り組みを求めることが難しくなっており、市の支援体制も変化すべき時期にきている。しかしながら、一部地域においては、地道ではあっても青少年に対する主体的な活動は続いているため、行政としては、こうした活動が続いていくよう、少なくとも経済的支援は継続していく必要がある。</p>
劣後・見直しする取り組み
<p>・地域のつながりの希薄化や価値観の多様化等により、青少年健全育成を担ってきた子ども会育成会や青少年育成委員の地域の中での存在意義が認められづらくなり、地域によっては役員の成り手不足が顕著となっていることから、青少年健全育成事業の取り組み方、特に組織体制を再考する時期にきている。</p>

### 5 事後評価

施策指標の要因分析
-
施策の定性評価
<p>・学校外の居場所づくりや子どもの見守りは、地域住民が協力し合って地域コミュニティの中に確保していく取組が必要であるが、現在は、市民の価値観が多様化し、地域コミュニティの関係性も希薄化するなど、市が自治会等を通じて、地域の課題解決を推進することが難しくなっている。                  ・今後は、市が目指す方向性を地域に共有しながら、協力を求めつつ、その一方で、自治会等に頼り過ぎない地域へのアプローチ方法を検討する必要がある。</p>

評価者	所属	交流文化部	職名	部長	氏名	上條 史生
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	上村 英文		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	青少年育成事業				担当課	社会教育スポーツ課		施策	2-4			
目的	対象	青少年(小学生・中学生・高校生)						新規/継続	継続			
	意図	青少年の自主性及び社会性を育むと共に、地域活動の中心的役割を担う青少年を育成する。						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度			令和7年度			令和8年度					
	○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の街頭巡視、出前講座、研修会参加			○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の研修会参加			○子ども会育成会への補助金交付 ○青少年育成委員の研修会参加					
事業費・財源	決算額	(千円)	7,762	予算額	(千円)	8,288	計画額	(千円)	5,876			
	青少年健全育成事業補助金		4,726	青少年健全育成事業補助金		4,875	青少年健全育成事業補助金		4,875			
	育成委員報酬		464	育成委員報酬		616	育成委員報酬		616			
	その他		392	その他		385	その他		385			
	人件費(会計年度任用職員)		2,180	人件費(会計年度任用職員)		2,412	人件費(会計年度任用職員)					
	特定	0	一般	7,762	特定	0	一般	8,288	特定	0	一般	5,876

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	B
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③		⑤	✓
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度から、青少年育成センターが実施する出前講座について、公民館と連携する形で実施した。</li> <li>7月30日には、洗馬公民館の学習ひろばで「ネット安全教室」と題した講座を実施し、8月1日には、中央公民館のサマースクールで「使ってみよう！作ってみよう！公衆電話」と題した講座を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年育成委員や子ども会育成会の役員は、R5年度の区役員等選出の見直しにより、選出が選択制となった。役員の任期は2年間で、R7年度末で任期満了となることから、翌年度は役員等の更なる減少が見込まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年育成委員について、役員の減少により子どもたちの健全育成に影響が出ないよう、組織の在り方や活動内容の見直しについて、引き続き検討していく必要がある。</li> <li>R8年度は、長野県青少年補導センターの会長(当番市)となることが決定しており、協議会・理事会・推進大会等を開催する必要があるため、人員を要する。</li> </ul>

第1次評価	・青少年育成委員については、在り方を含めて検討すること。	第2次評価	—
-------	------------------------------	-------	---

事務事業名	青少年育成事業	課名	社会教育スポーツ課
-------	---------	----	-----------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価)

(千円)

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
青少年健全育成事業補助金		4,875		4,875		4,875
育成委員報酬		616		616		616
その他		385		385		385
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
人件費(会計年度任用職員)				0		0
事業費合計		5,876	+0	5,876	+0	5,876
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	(名称)		0		0
	一般財源		5,876	+0	5,876	+0

○ 評価指標

評価指標(単位)	青少年健全育成事業補助金の交付団体数			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		75	75	
実績値(事後評価)	75	75		
目標値		75	75	75
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・地区子ども会育成会10団体及び単位子ども会育成会65団体全てが子ども会活動を実施し、補助金の交付を受けた。			
評価指標(単位)	青少年育成センターが実施する出前講座の回数(回)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		0	2	
実績値(事後評価)	-	1		
目標値		2	2	2
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・北小野及び檜川の2地区での情報モラル講座実施に向け、広報・HP・児童生徒等への電子データで周知を図ったが、参加者が0人であった。会場へのアクセス、周知方法等に工夫が必要である。			

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
・R6年度は、「子ども・若者育成支援推進強調月間」に伴い、子どもや若者が主体的に活動するための場を提供し、地域との交流を推進していくことを目的に、青少年育成委員協議会・子ども会育成連絡協議会の共催イベント「松本山雅キッズスポーツ教室」を初めて開催した。	・松本山雅スタッフの指導のもと、参加者同士が協力して行うゲームを通して、日頃から通学路の見守り活動をしている青少年育成委員と子どもたちとの交流や、地域・学年の枠を超えた子どもたち同士の交流が生まれ、青少年の自主性及び社会性を育むことができた。	・青少年育成委員や子ども会育成会について、役員の減少により子どもたちの健全育成に影響が出ないよう、組織の在り方や活動内容の見直しについて、引き続き検討していく。

作成担当者	交流文化部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	事務員	氏名	林 奏芽	連絡先(内線)	3133
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	上村 英文	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美		

# 令和7年度 施策評価シート

## 1 施策の位置付け

基本戦略	A	未来共育	戦略分野	3	伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習	ありたい姿	一人ひとりが日常を離れ好きな活動で自身と次世代の笑顔あふれる豊かな生活をつくり、このことが新たなつながりを生んでいる
施策	3-1	行事や文化活動で、新たな発見や刺激が得られる機会がある					

## 2 施策指標(KPI)

指標名	基準値		達成値			目標値
	基準年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和8年度
客観 公民館の来館者数	165,883人	R4	171,012人			225,000人
主観 学びたいことを学べる機会があると思う市民の割合	51.7%	R5	40.9%			55.7%

## 3 施策を構成する事務事業

番号	事務事業名	担当課	事業費(千円)			今後の方向性	
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	成果	コスト
1	生涯学習支援事業	社会教育スポーツ課	2,571	2,995	予算対応	現状維持	縮小
2	公民館事業	社会教育スポーツ課	42,906	43,482	予算対応	拡充	拡大

## 4 事中評価(事業構成の適正性)

優先する取り組み
<p>・公民館事業については、地域課題を踏まえた講座等の内容充実が図られているが、特に、夏休み期間に開催している子ども学習広場のような取り組みが地域から評価を得ており、年々ニーズが高まっている。引き続き、こうした地域課題を捉えた事業を展開し、公民館の存在価値を高めていきたい。</p>
劣後・見直す取り組み
<p>・ロマン大学は、受講希望者が定年延長等の影響等を受け、再受講者を含めても定員を欠ける状況であること、また、県のシニア大学の存在もあることから、講座数や内容を見直し、来年度から規模を縮小して開催する。</p>

## 5 事後評価

施策指標の要因分析
<p>・公民館の来館者数は、公民館で実施する講座等の内容の充実を図る等工夫したことにより、参加者が増えている。                  ・学びたいことを学べる機会があると思う市民の割合が減少していることに関しては、市が提供する学びの機会と、市民が望む学びたいことにミスマッチがある可能性がある。</p>
施策の定性評価
<p>・市民の価値観が多様化、複雑化する中において、市が提供する学びの機会も市民ニーズに合わせて変化させる必要があるが、現状は、市民ニーズを捉え切れていないと考えられる。限られた資源の中で、市として何を優先して学びの機会の提供を行うのかを研究する必要がある。</p>

評価者	所属	交流文化部	職名	部長	氏名	上條 史生
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	上村 英文		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	生涯学習支援事業				担当課	社会教育スポーツ課		施策	3-1		
目的	対象	市民						新規/継続	継続		
	意図	生涯学習のための環境と機会の提供						会計区分	一般		
年度別事業内容(手段)	令和6年度			令和7年度			令和8年度				
	○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業			○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業			○社会教育委員の活動 ○ロマン大学事業				
事業費・財源	決算額 (千円)	2,571	予算額 (千円)	2,995	計画額 (千円)	2,506					
	社会教育委員報酬	127	社会教育委員報酬	282	社会教育委員報酬	282					
	ロマン大学事業補助金	711	ロマン大学事業補助金	800	ロマン大学事業補助金	600					
	その他	1,733	その他	1,913	その他	1,624					
	人件費(会計年度任用職員)	0	人件費(会計年度任用職員)	0	人件費(会計年度任用職員)	0					
特定	82	一般	2,489	特定	35	一般	2,960	特定	35	一般	2,471

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	B
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③	✓	⑤	
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<p>・ロマン大学については、卒業要件を出席率7割と定めているが、やむを得ない事情等により、年度途中で出席率を満たせなくなった受講生が出てきた場合の救済制度がなかったことから、補講制度を設けた。令和7年度は3人が補講制度を利用し、学びの機会を得ている。</p>	<p>・ロマン大学については、60歳以上で7割以上の講義に出席できることを要件として受講者を募集しているが、定年延長等の影響もあり、社会で活躍しながら年25回の講義を受講することに負担感を感じるケースが出てきた。</p> <p>・受講者は、新しい知識や技能を身に付けるという目的以上に、仲間づくりの機会を求めて参加する方が多く、年25回もの講義を設定しなくても、その目的が達成できる可能性が出てきた。</p>	<p>・講義回数を重視する場合は、県のシニア大学など、他の制度を活用することで新しい知識や技能を多く習得できる。一方、仲間づくりの機会を重視する場合は、市の制度を活用すれば、市内の同世代の交流の輪が広がる。このように、受講者が主体的に応じた学びの場を選択できる仕組みを整えていきたい。</p> <p>・具体的には、令和8年度の募集から2学年制の「ロマン大学」を廃止し、単年制の「ロマン講座(仮)」を立ち上げ、講義内容の満足度は維持しつつ、講義回数は一定数削減する形でプログラムを組み立て、仲間との交流の機会を創出できるか検証する。</p> <p>・令和7年度に入学した26期生については、引き続き「ロマン大学」としての運営を継続する。</p>

第1次評価	・提案のとおり。	第2次評価	—
-------	----------	-------	---

事務事業名	生涯学習支援事業	課名	社会教育スポーツ課
-------	----------	----	-----------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価)

(千円)

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
社会教育委員報酬		282		282		282
ロマン大学事業補助金【縮小】		600		600		600
その他		1,624		1,624		1,624
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
人件費(会計年度任用職員)				0		0
事業費合計		2,506	+0	2,506	+0	2,506
財源内訳	国庫支出金 (名称)			0		0
	県支出金 (名称)			0		0
	地方債 (名称)			0		0
	その他 生涯学習書籍売上等	35		35		35
	一般財源	2,471	+0	2,471	+0	2,471

○ 評価指標

評価指標(単位)	ロマン大学入学者に占める新規入学者の割合(%)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		47.7	80.0	
実績値(事後評価)	100	47.7		
目標値		80.0	80.0	80.0
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・概ね60歳以上を対象に、定員40人で募集したが、卒業生が再び受講を希望した割合が高かった。法改正により65歳までの雇用確保が義務化されたことが大きな要因だと考えられる。			
評価指標(単位)	ロマン大学の講座を受講したことにより、新しい知識や技能が身についたと感じる参加者の割合(%)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		-	-	
実績値(事後評価)	-	83.8		
目標値		70.0	70.0	70.0
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・社会参加へのきっかけづくりを提供する学習プログラムを実施したこともあり、再受講する方の割合が高い中でも、8割以上が新しい知識等の習得につながったと感じている。			

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育委員の活動については、定例会で意見交換を行ったほか、社会教育推進計画策定のための意見交換を行った。</li> <li>ロマン大学については、生涯学習の一環として、社会参加へのきっかけづくりを提供する学習プログラムを実施した。</li> <li>ロマン大学では、やむを得ない事情等により、年度途中で出席率を満たせなくなった受講生が出てきた場合の救済制度がなかったことから、新たな取組として補講制度を導入した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習推進のための環境と機会を提供することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育事業全般の活性化を図るため、中央公民館等との連携事業の実施を検討していく。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	事務員	氏名	林 奏芽	連絡先(内線)	3133
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	上村 英文	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	公民館事業			担当課	社会教育スポーツ課			施策	3-1			
目的	対象	市民						新規/継続	継続			
	意図	生涯学習を推進すると共に地域連携を更に深めるための仕掛けづくり						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度			令和7年度			令和8年度					
	○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進 ○分館活動の支援			○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進 ○分館活動の支援			○学級講座の開催 ○地区公民館事業の推進 ○分館活動の支援					
事業費・財源	決算額 (千円)	42,906	予算額 (千円)	43,482	計画額 (千円)	33,188						
	地区公民館事業負担金	27,612	地区公民館事業負担金	27,679	地区公民館事業負担金	27,709						
	学級講座講師謝礼	1,062	学級講座講師謝礼	1,100	学級講座講師謝礼	1,100						
	その他	2,366	その他	3,008	長期休暇事業負担金	1,031						
					その他	3,348						
	人件費(会計年度任用職員)	11,866	人件費(会計年度任用職員)	11,695	人件費(会計年度任用職員)							
	特定	2,850	一般	40,056	特定	2,010	一般	41,472	特定	2,698	一般	30,490

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	総合評価	A
	有効性	4	高い		
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	✓
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	✓
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	

今後の方向性							
成果	拡充		④		②	①	✓
	現状維持		③		⑤		
	縮小		⑥				
	休廃止	⑦					
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大			

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>分館役員が一堂に会する公民館研究集会では、全体会で4つの分館が事例発表をしたところ、好評であった。その後の分科会でも、他地区の分館同士のつながりができ、互いに活動を見学したり、情報交換をしたりする分館があり、分館活動推進の一助となった。</li> <li>中央と地区館、地区館と地区館との連携講座が増加するだけでなく、主事同士で声を掛け合い、講座の手伝いをする中で、情報交換ができ、新たな講座の計画・実施も増加してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期休暇の子どもの居場所づくりとして、学習ひろばを実施する地区館が増加してきたが、予算や人手に限りがあるため、運営に苦慮している。他部署と連携してより良い受入体制作りが必要となる。</li> <li>中央公民館主催、地区公民館共催で行っているサマー・スクール公民館講座は、年々参加者が増加傾向にあり、申込者全員に受講してもらいたいが、定員の都合で落選となる参加者が多くなってしまった。講座内容を見直し、可能な限り全員が受講できるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常の公民館事業負担金とは別に、長期休暇事業負担金を加算する。</li> <li>講師を招く講座が多くなったことに加え、近年の物価上昇も影響し、食糧費が不足し予算流用で対応した。講師を招かなくても済む講座も計画しているが、普段体験できない講座を計画する場合、講師を招くことも必要となり、昼食やお茶を提供するため食糧費を増額したい。</li> <li>分館活動推進のため、中央、地区公民館による継続的な分館支援を行う。</li> </ul>

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期休暇事業負担金については、実際に実施する公民館のみに交付すること。また、公民館事業であるため強制的な実施を求めることなく、自主的に実施している公民館の支援となるよう制度設計すること。</li> </ul>	第2次評価	—
-------	---	-------	---

事務事業名	公民館事業	課名	社会教育スポーツ課
-------	-------	----	-----------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価)

(千円)

項目	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後	
地区公民館事業負担金【拡大】	27,709		27,709		27,709	
長期休暇事業負担金【新規】	1,031		1,031		1,031	
学級講座講師謝礼	1,100		1,100		1,100	
その他	3,348		3,348		3,348	
			0		0	
			0		0	
			0		0	
			0		0	
人件費(会計年度任用職員)			0		0	
<b>事業費合計</b>	<b>33,188</b>	<b>+0</b>	<b>33,188</b>	<b>+0</b>	<b>33,188</b>	
財源内訳	国庫支出金 母子家庭等対策総合支援事業補助金	688		688		688
	県支出金 (名称)			0		0
	地方債 (名称)			0		0
	その他 公民館使用料等	2,010		2,010		2,010
	一般財源	30,490	+0	30,490	+0	30,490

○ 評価指標

評価指標(単位)	公民館事業参加人数(人)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		8,951	7,617	
実績値(事後評価)	22,986	26,625		
目標値		25,000	25,500	26,000
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・地区公民館同士の共催事業が増加したことや、夏休み期間中の学習ひろばを実施する地区館が増加したことにより、参加人数が増加した。			
評価指標(単位)				
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		-		
実績値(事後評価)	-			
目標値				
(事後評価) 指標実績値の要因分析				

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>中央公民館では175回の講座を実施し参加者延べ2,624人、地区公民館では912回の講座を実施し参加者延べ24,001人であった。</li> <li>子どもたちの長期休暇期間では、地域住民や団体と協力して、学習をする場や食事の無償提供する場づくりを行った。</li> <li>コミュニティ・スクールと連携し、事例発表やパネルディスカッションなどのイベントを行い、学校教育、社会教育関係者、また子どもからシニア世代まで幅広い世代に公民館活動をPRできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各講座、事業ごとに目標を定めて、その目標達成手段として事業実施を進めることができた。</li> <li>公民館同士、地域内の団体や住民、また、庁内関係部署や小中学校、社協などと連携し、各テーマについて学ぶ講座を実施できた。</li> <li>地域でのゆるやかなつながりの場として、公民館事業を通して、社会教育の土壌づくりに寄与した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に関わりのない住民が、地域のことを自分事として捉えられるきっかけづくり、また、地域に気軽に出て来られる場づくりを継続して実施していく。</li> <li>分館活動がより活発になるよう、中央公民館、地区公民館の支援方法について検討していく必要がある。</li> <li>公民館活動の質は、公民館主事等職員の力量による部分が大きいいため、更なる力量形成に努める必要がある。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	中央公民館	職名	主任	氏名	中野 友美	連絡先(内線)	3141
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	上村 英文	担当係長	氏名			

# 令和7年度 施策評価シート

## 1 施策の位置付け

基本戦略	A	未来共育	戦略分野	3	伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習	ありたい姿	一人ひとりが日常を離れ好きな活動で自身と次世代の笑顔あふれる豊かな生活をつくり、このことが新たなつながりを生んでいる
施策	3-2	文化芸術に触れ、活動する機会がある					

## 2 施策指標(KPI)

指標名	基準値 基準年度		達成値			目標値
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和8年度
客観 文化会館(レザンホール)の利用者数	60,250人	R4	80,021人			110,000人
主観 文化・芸術・芸能が盛んで誇らしいと思う市民の割合	37.4%	R5	34.2%			41.4%

## 3 施策を構成する事務事業

番号	事務事業名	担当課	事業費(千円)			今後の方向性	
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	成果	コスト
1	全国短歌フォーラム事業	社会教育スポーツ課	5,281	5,701	予算対応	拡充	拡大
2	文化会館運営事業	社会教育スポーツ課	132,720	132,720	予算対応	現状維持	現状維持
3	文化会館改修事業	社会教育スポーツ課	25,300	149,200	精査中	拡充	拡大
4	芸術文化事業	社会教育スポーツ課	4,528	5,024	予算対応	現状維持	現状維持

## 4 事中評価(事業構成の適正性)

優先する取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>文化会館改修事業については、6月に実施した公募型プロポーザルの公募に応募者がなく不調となったため、再公告に向けた準備を進めている。事業者の参加要件を見直すとともに、全体の工期や休館期間を見直す必要が生じている。</li> <li>文化会館運営事業については、再公告の準備と並行して、大規模改修による長期休館への対応策を検討するとともに、次期指定管理者の更新に向けた準備を進める必要がある。</li> </ul>
劣後・見直しする取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>全国短歌フォーラムについては、来年迎える40周年の記念大会の開催内容を検討するとともに、これまでの成果や課題などを踏まえ、来年度以降の開催方法について検討を行う必要がある。</li> <li>芸術文化事業については、市民による主体的な芸術文化活動を推進することにより、地域の芸術文化振興を図ることとしているが、市の事業においては、出展・出演者が固定化し観覧者が減少している。新しい層の取り込みが図られるよう、事業の見直しを検討する必要がある。</li> </ul>

## 5 事後評価

施策指標の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>文化会館の利用者数については、コロナ禍を経て回復傾向にあるが、今後は大規模改修が予定されているため、工事期間中については、利用が大幅に制限される。</li> <li>文化・芸術・芸能が盛んで誇らしいと思う市民の割合が減少していることについては、この分野に関する市の情報発信が足りていない可能性も考えられる。</li> </ul>
施策の定性評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模改修後の文化会館の活用については、施設の目指す姿を定義した上で、取り組む事業について検討する必要がある。</li> <li>芸術文化事業については、現在、活動を行っている人が引き続き活動を行う環境を整えることが必要であるが、そのためには、限られた資源の中で、どのような優先順位で事業を行っていくのか検討する必要がある。</li> </ul>

評価者	所属	交流文化部	職名	部長	氏名	上條 史生
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	上村 英文		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	全国短歌フォーラム事業				担当課	社会教育スポーツ課				施策	3-2	
目的	対象	市民、全国の短歌愛好者						新規/継続	継続			
	意図	短歌を通じて、日本語の美しさ、素晴らしさを全国に発信し、塩尻市をPRする。						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○全国短歌フォーラムin塩尻の開催(第38回) ○全国短歌フォーラム資料のデジタル化				○全国短歌フォーラムin塩尻の開催(第39回)				○全国短歌フォーラムin塩尻の開催(第40回)			
事業費・財源	決算額 (千円)	5,281		予算額 (千円)	5,701		計画額 (千円)	3,950				
	全国短歌フォーラム事業負担金	3,469		全国短歌フォーラム事業負担金	3,750		全国短歌フォーラム事業負担金	3,950				
	資料デジタル化委託料	97										
	人件費(会計年度任用職員)	1,715		人件費(会計年度任用職員)	1,951		人件費(会計年度任用職員)					
	特定	15	一般	5,266	特定	23	一般	5,678	特定	23	一般	3,927

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	B
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	

今後の方向性								
成果	拡充		④		②		①	✓
	現状維持		③		⑤			
	縮小		⑥					
	休廃止	⑦						
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大				

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>投稿数増加のため、SNSを中心に広報に力を入れた結果、昨年度と比較して投稿数及び新規投稿者数がわずかに増加した。</li> <li>昨年度に引き続き「短歌」を親しむ機会として、SNS上で「しおじり七夕短歌コンテスト」を開催した。</li> <li>昨年度に引き続き学生への短歌学習の機会として、希望した学校・学級を対象に「短歌教室」の機会を設けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度に全国短歌フォーラムin塩尻が第40回の節目を迎えるにあたり、記念事業として、40回連続投稿者の表彰及び特別記念講演会等の実施を予定しているが、限られた予算の中で実施可能な内容を早急に検討していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌を郷土の文化として大切に、その魅力を内外に向けて発信してきた全国短歌フォーラム事業が40回の歴史を刻もうとしていることは、塩尻市にとっての財産であり、節目となる40回大会の記念事業の実施は必要なものとする。</li> <li>しかしながら、コロナ禍で大会が一時的に書面開催となって以降、負担金が大幅に削減され、運営がやや厳しい状況にある。</li> <li>短歌カレンダーの廃止等により用途の見直しを行いながら、ロマン大学の運営方法見直しを行う中で捻出した20万円を充てて記念事業を実施したい。</li> </ul>

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>第40回大会の事業費拡充を認める。</li> <li>短歌館施設を所管する文化財課とともに、短歌文化発信のための効果的な事業となるよう連携を模索し、事業の在り方を検討すること。</li> </ul>	第2次評価	—
-------	--	-------	---

事務事業名	全国短歌フォーラム事業	課名	社会教育スポーツ課
-------	-------------	----	-----------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価) (千円)

項目	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後	
全国短歌フォーラム事業負担金【拡大】	3,950		3,950		3,950	
			0		0	
			0		0	
			0		0	
			0		0	
			0		0	
			0		0	
			0		0	
人件費(会計年度任用職員)			0		0	
事業費合計	3,950	+0	3,950	+0	3,950	
財源内訳	国庫支出金 (名称)		0		0	
	県支出金 (名称)		0		0	
	地方債 (名称)		0		0	
	その他 書籍売上代	23		23		23
	一般財源	3,927	+0	3,927	+0	3,927

○ 評価指標

評価指標(単位)	全国短歌フォーラムin塩尻市内投稿者数(人)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		111	116	
実績値(事後評価)	100	111		
目標値		115	130	145
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・令和5年度に比べると増加したものの、目標値には若干届かなかった。特に若年層の投稿が少ないため、情報発信方法等若年層へのアプローチに課題がある。			
評価指標(単位)				
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				
(事後評価) 指標実績値の要因分析				

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第38回大会を書面で開催した。</li> <li>・しおじり学生短歌大会を開催した。</li> <li>・「短歌の里みてある記」を開催した。</li> <li>・「ティータイムに短歌をつくろう」を開催した。</li> <li>・佐佐木頼綱短歌講演会「先輩歌人が教えてくれた短歌上達アドバイス」を開催した。</li> <li>・「しおじり短歌展」を開催した。</li> <li>・新たな取組として「しおじり七夕短歌コンテスト」をX上で開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国短歌フォーラムin塩尻一般の部には、808人の投稿があった。</li> <li>・しおじり学生短歌大会には、1,903首の投稿があった。</li> <li>・「短歌の里みてある記」は、一般参加者18人のほか、広丘小学校の保護者と吉田小学校6年生約260人が参加した。広丘小学校6年生が短歌学習の成果として短歌館周辺の歌碑等の案内を行い、短歌の魅力を伝えたほか、広丘小学校と吉田小学校の児童の文化交流の機会となった。</li> <li>・新たな短歌イベントを企画・開催し、多くの方に短歌を親しんでもらえる機会を創出した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国短歌フォーラムin塩尻の投稿者及び短歌人口の拡大のため、若年層へのアプローチが必要であり、新たな方法で講演会やイベントを企画していく必要がある。</li> <li>・R8年度の「第40回全国短歌フォーラムin塩尻」の開催に向けて、周年記念の催し等の検討が必要である。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	城戸 葵香	連絡先(内線)	3136
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	上村 英文	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	文化会館運営事業		担当課	社会教育スポーツ課		施策	3-2		
目的	対象	市民、芸術文化活動者				新規/継続	継続		
	意図	質の高い芸術文化鑑賞事業等を市民に安価に提供する。				会計区分	一般		
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度		令和7年度		令和8年度				
	○指定管理による施設管理		○指定管理による施設管理		○指定管理による施設管理				
事業費・財源	決算額	(千円)	132,720	予算額	(千円)	132,720	計画額	(千円)	132,720
	指定管理料		132,720	指定管理料		132,720	指定管理料		132,720
	人件費(会計年度任用職員)		0	人件費(会計年度任用職員)		0	人件費(会計年度任用職員)		0
	特定		0	一般		132,720	特定		0
	一般		132,720	特定		0	一般		132,720

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	A
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③		⑤	✓
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト		皆減	縮小	現状維持	拡大	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模改修に伴う休館期間の周知や予約の停止・開放の調整を行っている。</li> <li>・田原俊彦氏のライブなど、集客力のある公演を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模改修に伴う休館期間が確定していないため、予約の停止・開放のこまめな調整が必要となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模改修の工期が決定しないため、令和8年以降の自主事業や利用者の予約については、今後も適宜調整を行っていく必要がある。</li> </ul>

第1次評価	・大規模改修後の施設運営の在り方を検討すること。	第2次評価	—
-------	--------------------------	-------	---

事務事業名	文化会館運営事業	課名	社会教育スポーツ課
-------	----------	----	-----------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価)

(千円)

項目	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
指定管理料	132,720		132,720		132,720
			0		0
			0		0
			0		0
			0		0
			0		0
			0		0
人件費(会計年度任用職員)	0		0		0
<b>事業費合計</b>	<b>132,720</b>	<b>+0</b>	<b>132,720</b>	<b>+0</b>	<b>132,720</b>
財源内訳	国庫支出金 (名称)		0		0
	県支出金 (名称)		0		0
	地方債 (名称)		0		0
	その他 (名称)		0		0
	一般財源	132,720	+0	132,720	+0

○ 評価指標

評価指標(単位)	文化会館自主事業実施数			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		13	6	
実績値(事後評価)	30	34		
目標値		30	30	0
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・NHKや長野放送等との共催事業を、昨年度よりも多く行った。			
評価指標(単位)	文化会館自主事業来場者数(人)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		16,473	6,707	
実績値(事後評価)	24,431	26,656		
目標値		25,000	25,500	0
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・NHKのど自慢など幅広い年齢層が興味関心のある事業を多く行ったことが、来場者数の増加につながった。			

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキマスイッチなどのJ-POPコンサートから劇団四季の演劇まで、様々なジャンルにおいて、集客力のある公演を行った。</li> <li>・NHKのど自慢を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なジャンルの公演を行うことで幅広い客層のニーズに応え、より多くの方が芸術文化に触れる機会を創出した。</li> <li>・NHKのど自慢では、予選会を含めて全国から多くの方の来場があり、塩尻市及びレザンホールでのPRにつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度で5年間の指定管理が区切りとなるため、協定内容等の見直しを行いながら、指定管理者選定を行っていく必要がある。</li> <li>・大規模改修中の指定管理業務内容及び指定管理料を検討する必要がある。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	山本 俊輝	連絡先(内線)	3137
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	上村 英文	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美		

令和7年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名	文化会館改修事業				担当課	社会教育スポーツ課				施策	3-2	
目的	対象	市民、文化会館利用者								新規/継続	継続	
	意図	芸術文化鑑賞事業等の実施拠点の機能維持								会計区分	一般	
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○基本計画策定 ・吊天井改修 ・大規模改修 ・工事、仮設				○大規模改修 ・CM業務委託 ・設計				○大規模改修 ・CM業務委託 ・設計 ・工事			
事業費・財源	決算額	(千円) 25,300		予算額	(千円) 149,200		計画額	(千円) 199,745				
	改修調査業務委託料	25,300		CM業務委託料	28,200		CM業務委託料	24,300				
				工事費	25,300		工事費	175,400				
				工事費(R8繰越分)	95,700		旅費	45				
	特定	5,300	一般	20,000	特定	134,200	一般	15,000	特定	179,700	一般	20,045

○事中評価

評価視点	有効性	4	高い	総合評価	A
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	✓
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性									
成果	拡充		④		②		①	✓	
	現状維持		③		⑤				
	縮小		⑥						
	休廃止	⑦							
		皆減	縮小	現状維持	拡大				
		コスト							

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
・大規模改修工事に向けた事業者の選定を行っている。	・当初公告では工期などの条件の不一致のためか、不調となってしまった。現在、再公告に向けた準備を進めているが、募集の条件設定に時間を要している。	・再公告により事業者の選定を行う必要がある。 ・事業者が決定した後、基本設計・実施設計にて施工方法や工期等について、詳細な調整を行っていく必要がある。

第1次査定	・要求のとおり。 ・クラウドファンディング型ふるさと寄附の活用について財政課と検討すること。	第2次査定	—
-------	---	-------	---

○ 実施計画補正要求

(千円)

年度	概要		項目(起債対象に※)		計画額	補正要求額	補正後額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後	
令和8年度	○大規模改修 ・CM業務委託 ・設計 ・工事		大規模改修(設計・工事・監理)	※	5,345,900	▲5,170,500	175,400		175,400		175,400	
			設計段階CM(R7~8)	※	12,800	+11,500	24,300		24,300		24,300	
			施工段階CM(R8~10)	※	13,800	▲13,800	0		0		0	
			旅費		0	+45	45		45		45	
							0		0		0	
			事業費合計		5,372,500	▲5,172,755	199,745	0	199,745	0	199,745	
	財源内訳	国庫支出金	(補助金名)					0		0		0
		県支出金	(補助金名)					0		0		0
		地方債1	公共施設等適正管理推進事業債	90%	4,835,200	▲4,655,500	179,700		179,700		179,700	
		地方債2	(地方債名)				0		0		0	
		地方債3	(地方債名)				0		0		0	
		その他	(名称)				0		0		0	
		一般財源				537,300	▲517,255	20,045	0	20,045	0	20,045

○事後評価

取組内容	結果・成果	課題
・文化会館改修事業実施に向けた基本計画の策定及び業者選定に向けた準備業務を行った。	・事業の実施内容について、庁内及び議会等の理解を得ながら、改修箇所や改修時期、予算規模等を決定した。	・改修時期が定まっていないため、休館期間への対応を臨機応変に行う必要がある。

○評価指標

評価指標(単位)	文化会館改修の総事業費における実施率		
年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)	0.0	0.0	
実績値(事後評価)	0.0		
目標値			
(事後評価)指標実績値の要因分析	・改修事業実施に向けた基本計画の策定および業者選定準備を行った。		

作成担当者	交流文化部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	山本 俊輝	連絡先(内線)	3137
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	上村 英文	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	芸術文化事業				担当課	社会教育スポーツ課				施策	3-2	
目的	対象	市民、芸術文化活動者						新規/継続	継続			
	意図	市民の芸術文化意識の向上と活動者の拡大・活性化により、市芸術文化の振興を図る。						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○芸術文化5事業(市民文化祭・市民音楽祭・市民秋の文化祭・市民洋楽舞踊フェスティバル・市民演劇フェスティバル)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用				○芸術文化5事業(市民文化祭・市民音楽祭・市民秋の文化祭・市民洋楽舞踊フェスティバル・市民演劇フェスティバル)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用				○芸術文化5事業(市民文化祭・市民音楽祭・市民秋の文化祭・市民洋楽舞踊フェスティバル・市民演劇フェスティバル)の開催 ○芸術文化活動者支援 ○芸術作品の保存活用			
事業費・財源	決算額	(千円)	4,528		予算額	(千円)	5,024		計画額	(千円)	3,001	
	芸術文化事業委託料		2,260		芸術文化事業委託料		2,260		芸術文化事業委託料		2,260	
	芸術文化事業補助金		170		芸術文化事業補助金		250		芸術文化事業補助金		250	
	青少年芸術文化全国大会等激励金		240		青少年芸術文化全国大会等激励金		420		青少年芸術文化全国大会等激励金		420	
	その他		54		その他		71		その他		71	
	人件費(会計年度任用職員)		1,804		人件費(会計年度任用職員)		2,023		人件費(会計年度任用職員)			
	特定		0	一般		4,528	特定		0	一般		5,024
	特定		0	一般		3,001	特定		0	一般		3,001

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	B
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③		⑤	✓
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<p>6/6-8:塩尻市民文化祭【展示発表の部】来場者数約400人 6/8:塩尻市民文化祭【展示発表の部】来場者数約300人 7/13:塩尻市民音楽祭【管弦楽発表】来場者数約1,000人</p> <p>・会場予約との兼ね合いもあり、市内の他イベントと日程が重なってしまった。</p>	<p>・来年度以降、レザンホールが大規模改修工事に入るため、例年通りの会場や開催日程ではイベントの実施ができない場合がある。</p>	<p>・レザンホール大規模改修工事の工期や他イベントの開催日・開催状況を考慮した開催日時、開催場所を設定する。</p>

第1次評価	・提案のとおり。	第2次評価	—
-------	----------	-------	---

事務事業名	芸術文化事業	課名	社会教育スポーツ課
-------	--------	----	-----------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価)

(千円)

項目	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
芸術文化事業委託料	2,260		2,260		2,260
芸術文化事業補助金	250		250		250
青少年芸術文化全国大会等激励金	420		420		420
その他	71		71		71
			0		0
			0		0
			0		0
			0		0
人件費(会計年度任用職員)			0		0
<b>事業費合計</b>	<b>3,001</b>	<b>+0</b>	<b>3,001</b>	<b>+0</b>	<b>3,001</b>
財源内訳	国庫支出金 (名称)		0		0
	県支出金 (名称)		0		0
	地方債 (名称)		0		0
	その他 (名称)		0		0
	一般財源	3,001	+0	3,001	+0

○ 評価指標

評価指標(単位)	芸術文化事業参加団体数(団体)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		48	46	
実績値(事後評価)	132	133		
目標値		150	150	150
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・演劇フェスティバルは、市内高校演劇部の部員数が少なく出演がなかったことから、1団体のみでの参加となった。 ・洋楽舞踊フェスティバルはキッズダンスを中心に参加団体数が増加している。			
評価指標(単位)	芸術文化事業参加来場者数(人)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		1,700	1,700	
実績値(事後評価)	5,430	5,390		
目標値		5,000	6,000	0
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・演劇フェスティバルが1団体のみでの出演となった分、昨年度よりも来場者数は減少した。			

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭、音楽祭(全3部門)、秋の文化祭、洋楽舞踊フェスティバル、演劇フェスティバルの5事業を実施した。</li> <li>・新春書き初め会を実施した。</li> <li>・演劇ワークショップを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洋楽舞踊フェスティバルについては、ダンスの流行もあり、参加団体数が増加し、来場者数も高い水準となった。</li> <li>・演劇フェスティバルについては、発表団体数自体は1団体であったものの、部員数が少なく単独出演の難しい市内高校演劇部部員や演劇ワークショップの参加者も出演して演目を披露することができ、好評であった。</li> <li>・文化祭・音楽祭については、参加団体数・来場者数ともに例年並みの実績となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの団体で高齢化が進んでいる。団体が新規加入者を募れるようなイベントや機会を工夫して作っていく必要がある。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	社会教育スポーツ課	社会教育係	職名	主事	氏名	山本 俊輝	連絡先(内線)	3137
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	上村 英文	担当係長	社会教育係長	氏名	清水 佳美		

# 令和7年度 施策評価シート

## 1 施策の位置付け

基本戦略	A	未来共育	戦略分野	3	伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習	ありたい姿	一人ひとりが日常を離れ好きな活動で自身と次世代の笑顔あふれる豊かな生活をつくり、このことが新たなつながりを生んでいる
施策	3-3	本をはじめ新たな情報や知識に触れ、探索・体験する機会がある					

## 2 施策指標(KPI)

指標名	基準値 基準年度		達成値			目標値
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和8年度	令和8年度	
客観	市民一人当たりの図書館貸し出し冊数	9.8冊 R4	8.3冊			10.0冊
	図書館レファレンス件数	1,987件 R4	1,409件			2,500件
主観	図書館の利用環境が整っていると感じる市民の割合	87.6% R5	77.7%			増加
ブ ラ ン ド	市民の図書館利用登録率	39.5% R4	42.5%			43.0%

## 4 事中評価(事業構成の適正性)

優先する取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館サービス基盤整備事業は、物価高騰に伴い、書籍や雑誌の価格が上がっていて、当面この状況が続くと予想されている。これまでと同じ予算額のままでも購入できる資料の数が減っていき、市民が必要としている資料が購入できなくなることも想定されるため、図書購入費は現状を維持する必要がある。</li> <li>・図書館サービスの根幹となっている職員の処遇改善と人材確保を継続して行う必要がある。</li> <li>・重点事業である「信州おじり本の寺子屋」で、著者、出版社、書店、図書館が連携し、出版文化の未来に寄与していく取り組みを継続していく必要がある。</li> <li>・様々な対象者に向けた読書活動の推進を積極的に進めていく必要がある。</li> </ul>
劣後・見直しする取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度がリース期間終了を迎える図書館システムの更新については、再リースにより予算を抑える方向で検討を進めたい。</li> </ul>

## 3 施策を構成する事務事業

番号	事務事業名	担当課	事業費(千円)			今後の方向性	
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	成果	コスト
1	市民読書活動推進事業	図書館	1,550	1,489	予算対応	現状維持	現状維持
2	本の寺子屋推進事業	図書館	2,237	2,623	予算対応	拡充	拡大
3	図書館サービス基盤整備事業	図書館	60,683	59,620	予算対応	現状維持	縮小

## 5 事後評価

施策指標の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民一人当たりの貸出冊数やレファレンス受付件数は、市民交流センターの大規模改修工事により5か月の休館期間があったことから、基準値よりも低下してしまったが、図書館本館休館期間中は市内各分館の開館拡大を行い、分館の存在を周知することができた。</li> <li>・本館休館期間中も本と市民をつなぐために本の寺子屋事業を別会場で開催したところ、参加者の満足度が高かった。開館再開後のリニューアルオープンイベントでは多くの来館をいただき、快適な環境をPRすることができた。</li> <li>・休館期間も計画的な資料の購入を行うことで、市民への情報提供基盤の強化を行った。</li> </ul>
施策の定性評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館本館の長期休館という厳しい状況の中で、分館の開館を拡大し、保育園や学校への団体貸し出しを積極的に行い、本の寺子屋の会場を保健福祉センターに変更するなど、すべての職員のアイデアと、行動力を総動員して図書館サービスの提供を継続することができた。</li> <li>・計画的に資料の購入を進め、市民ニーズに沿った資料収集を行うことで利用につながっている。</li> </ul>

評価者	所属	交流文化部	職名	部長	氏名	上條 史生
施策担当課長	所属	図書館	氏名	矢澤 昭義		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	市民読書活動推進事業				担当課	図書館				施策	3-3			
目的	対象	乳幼児から高齢者までの市民、団体								新規/継続	継続			
	意図	幼児・児童の読書活動を推進するとともに、ボランティアを育成する。								会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度					
	○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施 ○市民読書活動グループとの連携 ○学校との連携による読書活動支援				○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施 ○市民読書活動グループとの連携 ○学校との連携による読書活動支援				○絵本プレゼントの実施 ○おはなしプレゼントの実施 ○市民読書活動グループとの連携 ○学校との連携による読書活動支援					
事業費・財源	決算額 (千円)		1,550	予算額 (千円)		1,489	計画額 (千円)		1,489					
	消耗品費		1,182	消耗品費		1,066	消耗品費		1,066					
	印刷製本費		136	印刷製本費		122	印刷製本費		122					
	市民読書グループ活動補助金		70	市民読書グループ活動補助金		70	市民読書グループ活動補助金		70					
	その他		162	その他		231	その他		231					
	人件費(会計年度任用職員)		0	人件費(会計年度任用職員)		0	人件費(会計年度任用職員)		0					
特定	0	一般	1,550	特定	0	一般	1,489	特定	0	一般	1,489			

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	A
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	✓
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③		⑤	✓
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校巡回ものがたりライブを市内小学校3校で実施した。</li> <li>ファーストブック及びセカンドブック事業を引き続き実施し、家庭での読書環境の充実を図っている。</li> <li>学校図書館の機能向上の取組として、市町村と県による協働電子図書館「デジとしよ信州」の導入を進めるため学校への説明を行った。また、新たに教員用デモIDの登録を開始したところ、新規の登録があった。</li> <li>読書活動グループ連絡会と連携し、各種おはなし会を実施した。</li> <li>令和7年3月に策定された第5次長野県子ども読書活動推進計画に伴い、第4次塩尻市子ども読書活動推進計画の策定に向けアンケートを実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出張図書館やおはなし会の希望が順調に増えており、現状の体制で対応することが難しくなっている。おはなし会ボランティアの育成を図るとともに、個人でのボランティア加入を検討する必要がある。</li> <li>第4次塩尻市子ども読書活動推進計画の策定を進める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での読書推進のため、絵本プレゼント事業は継続して実施する必要がある。</li> <li>読書活動グループ連絡会との連携を継続するとともに、読書推進アドバイザーによる読み聞かせ講座や絵本講座等を定期的に行うことで、読書活動グループへの新規加入を促したり、ボランティア全体の育成を図ったりする必要がある。</li> </ul>

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファーストブック・セカンドブックについて、親子を対象とした効果的な読書活動の推進につながるよう、配布の回数及びタイミングが適切であるかを検証すること。</li> <li>年齢別ブックリストの印刷については、業者に発注する手法は令和8年度までとする。電子媒体での提供や内製による印刷を検討すること。</li> </ul>	第2次評価	—
-------	--	-------	---

事務事業名	市民読書活動推進事業	課名	図書館
-------	------------	----	-----

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価)

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
消耗品費(一般分)		68		68		68
消耗品費(ファーストブック、セカンドブック)		998		998		998
印刷製本費		122		122		122
市民読書グループ活動補助金		70		70		70
講師謝礼		150		150		150
その他		81		81		81
				0		0
				0		0
人件費(会計年度任用職員)				0		0
事業費合計		1,489	+0	1,489	+0	1,489
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	(名称)		0		0
	一般財源		1,489	+0	1,489	+0

○ 評価指標

評価指標(単位)	おはなし会実施数(回)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		77	85	
実績値(事後評価)	288	229		
目標値		150	250	250
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・例年、本館で実施しているおはなし会は、休館に伴い約半年間実施できなかったが、広丘図書館や各分館で可能な限りおはなし会を実施したため、目標値を上回る数値となった。			
評価指標(単位)	団体貸出冊数(全館)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		21,246	19,366	
実績値(事後評価)	45,096	42,287		
目標値		30,000	45,000	46,000
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・本館の長期休館に伴い、小中学校及び保育園、児童館に向けた団体貸出を積極的に行ったため、目標値を上回る数値となった。			

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファーストブック、セカンドブック事業を推進し、子育て支援や子どもの読書環境の充実に努めた。</li> <li>・学校巡回ものがたりライブを実施した。</li> <li>・読書活動グループ連絡会の活動を支援した。</li> <li>・市町村と県による協働電子図書館「デジとしよ信州」の周知を進め、学校での新規開始に繋げた。</li> <li>・市民交流センターの改修工事に伴う本館の休館により、団体貸出の方法を変更し、学校や児童館等へ継続的な貸出しを実施できた。</li> <li>・本館休館で実施できないおはなし会を分館などで実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を配布することで、幼少期からの読書環境及び家族とのふれあいの機会を提供した。</li> <li>・市内小学校2校で学校巡回ものがたりライブを実施し、小学生に物語の楽しさを届けることができた。</li> <li>・本館の休館期間中でも、学校や児童館などへの団体貸出を実施し、利用に繋げることができた。</li> <li>・分館でおはなし会や調べ学習を実施し、利用に繋げることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼少期からの読書環境の充実に更に進める必要がある。</li> <li>・今後も学校巡回ものがたりライブを継続していく必要がある。</li> <li>・更なる読書活動推進のため、サードブック導入検討を進める必要がある。</li> <li>・令和7年3月に第5次長野県子ども読書活動推進計画が策定されたことに伴い、県の方針を踏まえた内容で第4次塩尻市子ども読書活動推進計画を策定する必要がある。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	図書館	職名	主任	氏名	矢ヶ崎 文	連絡先(内線)	4241
最終評価者	館長	氏名	矢澤 昭義	担当係長	副館長	氏名	小松 久美	

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	本の寺子屋推進事業				担当課	図書館				施策	3-3			
目的	対象	市民と市外の人、団体、企業								新規/継続	継続			
	意図	市民や市外居住の人向け文化的な体験機会を創出し、生涯学習の場を提供するとともに、本市の取り組みを広く周知する。								会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度					
	○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催 ○企画展示 ○本の寺子屋友の会運営費				○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催 ○企画展示 ○本の寺子屋友の会運営費				○本の寺子屋講演会開催 ○子ども本の寺子屋開催 ○地域文化サロン開催 ○古田晁記念館文学サロン開催 ○企画展示 ○本の寺子屋15周年記念出版準備 ○本の寺子屋友の会運営費					
事業費・財源	決算額	(千円)		2,237	予算額	(千円)		2,623	計画額	(千円)		2,662		
	講師謝礼			1,207	講師謝礼			1,224	講師謝礼			1,224		
	費用弁償			350	費用弁償			499	費用弁償			499		
	印刷製本費			374	印刷製本			374	印刷製本費			413		
	その他			306	その他			526	その他			526		
	人件費(会計年度任用職員)			0	人件費(会計年度任用職員)			0	人件費(会計年度任用職員)			0		
特定	5	一般	2,232	特定	0	一般	2,623	特定	0	一般	2,662			

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	A
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	✓
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	① ✓
	現状維持		③		⑤	
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>友の会設置に向け、5/11と6/22の講演会開催時に、アンケートを配布。参加希望者は数名いたが、市外在住者が多い。交流会について現在計画中。</li> <li>小学5年～中学3年生向けの講座「図書館マスター」は開催曜日を固定したため、今年度は10名の参加者が集まった。紙でのチラシ配布が効果的と考えられるため、保護者への配信に加えて、学校図書館へのチラシ設置を今後も継続していきたい。</li> <li>多くの申し込みが見込まれる講演会の受付を「ながの電子申請」のみにしたため、電話対応や抽選結果の連絡業務を減らすことができ、職員の負担軽減に繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初に開催した講演会に、想定以上の申し込みがあり、先着順ではなく抽選での受付を検討すべきだった。</li> <li>友の会への参加に対する市民からの反応が少なかったことを踏まえ、活動の方向性について検討する必要がある。</li> <li>開催中の企画展を見て、企画の持込が増加してきたが、明確な基準がなく、受け入れ等の判断が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度は「本の寺子屋開校15周年、図書館開館55周年、古田晁生誕120周年」の年に当たるため、書籍の出版を検討している。出版に係る経費(委託料)を令和9年度に予算計上したい。</li> <li>ながの電子申請による講演会の申し込みは、参加者からの不満等が少なく、不明点の問い合わせについても、電話や窓口での支援により対応可能だったため、今後、申し込みは段階的にながの電子申請のみに移行していきたい。</li> </ul>

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度の事業費は前年度と同規模とするが、従来とは異なる事務局体制となることから全体の開催回数や有料化について検討するとともに、図書館職員への過度な負担とならないよう事業の在り方を見直し、予算編成時に検討結果を提示いただきたい。</li> <li>特に、本事業は一般的な図書館サービスとは異なり、特定の者を対象とする事業であるため、有料化については確実に検討すること。</li> </ul>	第2次評価	—
-------	---	-------	---

事務事業名	本の寺子屋推進事業	課名	図書館
-------	-----------	----	-----

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価)

項目	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
講師謝礼	1,224		1,224		1,224
費用弁償	499		499		499
印刷製本費(パンフレット)【拡大】	413		413		413
企画展示経費(総量、保険料、借上料)	376		376		376
	150		150		150
			0		0
			0		0
			0		0
人件費(会計年度任用職員)	0		0		0
<b>事業費合計</b>	<b>2,662</b>	<b>+0</b>	<b>2,662</b>	<b>+0</b>	<b>2,662</b>
財源内訳	国庫支出金 (名称)		0		0
	県支出金 (名称)		0		0
	地方債 (名称)		0		0
	その他 (名称)		0		0
	一般財源	2,662	+0	2,662	+0

○ 評価指標

評価指標(単位)	講演会・トークショー・企画展示開催数(回)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		12	10	
実績値(事後評価)	24	26		
目標値		18	18	18
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・市民交流センター改修工事のため日程を可能な限り工事期間外とし、8月以降は保健福祉センターや北部交流センターを会場にして実施したことで、例年並みの回数を実施することができた。			
評価指標(単位)	参加満足度(%)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		95.5	92.4	
実績値(事後評価)	92.0	94.1		
目標値		90.0	90.0	90.0
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・会場を変更し実施しても、満足度に影響することなく高い評価をいただいた。多彩な講師を招き講演会を継続して実施していくことで、ブランド力が高まったことも要因の一つと考えられる。			

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して講演会・講座18回、企画展示5回を開催した。</li> <li>子ども本の寺子屋でも講座やワークショップなどを実施し、本に触れる機会を創出することができた。</li> <li>企画展示も多くの方に興味を持っていただき、原画展に合わせて、ギャラリートークと読み聞かせ会、ワークショップを各1回ずつ実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加人数は1,881人となり、満足度も目標値を上回った。</li> <li>プレスリリースを積極的に行い、新聞等で取り上げられることで事業の認知度を高め、参加促進に繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友の会設置に向けた交流会を開催したが、令和6年度での設置はかなわなかった。交流会以外の設置に向けた取組を検討していく必要がある。</li> <li>休館に伴い図書館マスターの開催曜日にばらつきが生じて参加率が良くなかった。学校へのチラシ配布が電子化されているので、開催曜日の固定と周知方法の検討をしていく。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	図書館	職名	主事	氏名	桐沢 梨央	連絡先(内線)	4243
最終評価者	館長	氏名	矢澤 昭義	担当係長	副館長	氏名	小松 久美	

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	図書館サービス基盤整備事業				担当課	図書館				施策	3-3				
目的	対象	市民、図書館利用者、団体、企業								新規/継続	継続				
	意図	図書館資料の充実と活用、図書館システムによる安定的な運営								会計区分	一般				
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度						
	○図書館電算機器使用料 ○図書データ整備 ○情報資料の購入				○図書館電算機器使用料 ○図書データ整備 ○情報資料の購入 ○システム改修(カードレス化)				○図書館電算機器使用料 ○図書館システム更新 ○図書データ整備 ○情報資料の購入						
事業費・財源	決算額	(千円) 60,683				予算額	(千円) 59,620				計画額	(千円) 56,336			
	図書館システム使用料	21,290				図書館システム使用料	21,291				図書館システム使用料	16,912			
	図書データ作成委託料	1,190				図書データ作成委託料	1,595				図書データ作成委託料	1,727			
	図書購入費	29,988				図書購入費	28,995				図書購入費	28,995			
	電子図書館協働運営事業負担金	248				電子図書館協働運営事業負担金	249				電子図書館協働運営事業負担金	250			
	その他	7,967				その他	7,490				その他	8,452			
	人件費(会計年度任用職員)	0				人件費(会計年度任用職員)	0				人件費(会計年度任用職員)	0			
	特定	1,014	一般	59,669	特定	1,014	一般	58,606	特定	1,014	一般	55,322			

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	A
	有効性	4	高い		
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	✓
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③	✓	⑤	
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>書籍や雑誌の値上げが止まることなく続いており、昨年度と同程度の上昇率で計算すると書籍は約200点、雑誌は約200点購入数が減少する。選書を熟考し、質や量が落ちないように努力しているが、高額なレファレンス資料や統計資料など、図書館サービスに必要な資料も購入を断念せざるを得ない状況となっている。</li> <li>利用者の声を拾い、統計も細かく取るなどしながら、蔵書構成の参考にしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館システムの更新に向けて、必要となる情報の収集や方針の検討・決定などを行う必要がある。</li> <li>主要な選書ツールである冊子「週刊新刊全点案内」が来年度大幅に値上げされるため、選書方法のWeb移行等、検討を行う必要がある。</li> <li>市町村と県による協働電子図書館「デジとしよ信州」の第1期の5年間の終了に伴い、県立長野図書館ほか県内市町村と連携して第2期に向けた準備を進める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の叶えたい暮らし実現の一助となるよう、さまざまな知識へのアクセスのしやすさを保障することとあわせて、多様な市民の要求や変化の早い社会状況に対応するため、市民の共有財産としての図書館資料を充実させる必要がある。また、情報基盤を整え更新していくためにも、資料費は現状を維持する必要がある。</li> <li>図書館システムの更新については、再リースにより予算を抑える方向で検討を進めたい。</li> <li>デジとしよ信州事業は、単独で電子図書館を導入するより予算の負担が少ないため、今後も継続して参加していきたい。</li> </ul>

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館システムの更新については、他自治体との共同調達を行うことによるデジタル活用推進事業債の活用等、財源を含めて検討すること。また、学校図書館システムとの連携についても検討すること。</li> <li>椅子の修繕については高額であることから実施を見送る。椅子の追加設置が必要であれば、必要数を精査し現状よりも安価な椅子の購入を検討すること。</li> </ul>	第2次評価	—
-------	--	-------	---

事務事業名	図書館サービス基盤整備事業	課名	図書館
-------	---------------	----	-----

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価)

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
図書館システム使用料		16,912		16,912		16,912
図書データ作成委託料		1,727		1,727		1,727
図書購入費		28,995		28,995		28,995
電子図書館協働運営事業負担金		250		250		250
消耗品費		6,607		6,607		6,607
備品修繕料【新規】		1,430	▲1,430	0		0
書庫電動式移動棚保守点検委託料		869		869		869
その他		976		976		976
人件費(会計年度任用職員)				0		0
事業費合計		57,766	▲1,430	56,336	+0	56,336
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	広告料、システム使用負担金	1,014	1,014		1,014
	一般財源		56,752	▲1,430	55,322	+0

○ 評価指標

評価指標(単位)	新規購入図書回転率			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		-	2.7	
実績値(事後評価)		4.4		
目標値		5.0		
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・本館が長期休館していた分、利用者数、貸出数ともに減少した。			
評価指標(単位)	市民の実貸出利用率(%)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		-	10.3	
実績値(事後評価)		13.3		
目標値		14.9		
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・本館が長期休館していた分、利用者数、貸出数ともに減少した。			

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館資料を購入し、資料の充実を図った。</li> <li>・情報の古い資料などの除籍を進め、情報提供基盤の強化を行った。</li> <li>・図書の書誌情報データ、雑誌視聴覚資料データの作成委託を行った。</li> <li>・図書館システムを活用して迅速な資料検索・調査対応と提供を行った。</li> <li>・本館の長期休館中は、えんぱーく内に臨時窓口を設けるとともに、広丘図書館及び分館に本館の資料の一部や新着書を配置し、巡回を促す取組を行うなど、サービスの維持、情報提供に努めた。</li> <li>・市町村と県による協働電子図書館「デジとしよ信州」について、中学校での利用登録を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ニーズや社会情勢等を鑑みながら図書館資料を充実させ、市民の知る権利を守り、叶えたい暮らしを応援するための情報提供基盤を強化した。</li> <li>・図書データの作成委託でシステムへの資料登録を効率的に行い、迅速な資料提供ができた。</li> <li>・本館の長期休館中、広丘図書館や各分館の個人貸出資料数が最大で1.3倍増加した。また、団体貸出サービスをに力を入れ、過去3番目に多い貸出数となった。</li> <li>・本館が長期休館していたが、市民一人あたりの貸出数は約8.3冊と、予想を上回る数だった。(参考:令和5年度の県内市の上位の実績 塩尻市9.8冊、安曇野市7.6冊、伊那市6.9冊、飯田市6.6冊)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い市民ニーズをはじめ、多様な需要に対応するための資料や情報の充実を随時図っていく必要があるが、資料全体の価格が上昇し続けているため、購入できる資料数が減っていくことが考えられる</li> <li>・令和8年度の図書館システムの更新に向けて、機能の検討等準備をしていく必要がある。</li> <li>・デジとしよ信州を広く市民に周知し、利用登録を拡大するとともに、学校での活用充実について検討していく必要がある。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	図書館	職名	係長代理	氏名	北澤 梨絵子	連絡先(内線)	4106
最終評価者	館長	氏名	矢澤 昭義	担当係長	副館長	氏名	小松 久美	

# 令和7年度 施策評価シート

## 1 施策の位置付け

基本戦略	A	未来共育	戦略分野	3	伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習	ありたい姿	一人ひとりが日常を離れ好きな活動で自身と次世代の笑顔あふれる豊かな生活をつくり、このことが新たなつながりを生んでいる
施策	3-4	スポーツ・運動に触れ、参加する・見る・支える場所・機会が広がる					

## 2 施策指標(KPI)

指標名	基準値 基準年度		達成値			目標値
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和8年度	令和8年度	
客観	スポーツ施設利用者数	494,193人 R4	548,287人			572,000人
	週1回以上スポーツや運動に親しむ20歳以上の割合	47.5% R4	45.6%			50.0%
主観	子どもから高齢者まで誰でもスポーツに参加する・見る・支える環境があると感じる市民の割合	38.8% R5	38.6%			42.8%

## 4 事中評価(事業構成の適正性)

優先する取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民スポーツ大会開催に向けた計画づくりや予算の算出を進める必要がある。</li> <li>・市民スポーツ振興事業は、部活動地域移行に向けた社会体育関係者との調整、松本山雅フェスティバルに関する来年度以降の運営主体移行の協議を進める必要がある。</li> <li>・体育施設管理運営事業は、来年度の予約システムの更新に向けて、電子決済の導入などの検討を進めるなど、利用しやすい環境を整えていく必要がある。</li> <li>・総合体育館事業は、現在実施している次期指定管理者公募及び選定に向けた事務を進めていく。また、市民が利用しやすいよう早期予約の内容を変更し、周知していく。</li> </ul>
劣後・見直しする取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康スポーツ事業は、令和9年度にスポーツ推進委員、スポーツ普及員のメンバーの改選があることを見据え、組織体制の見直しを検討するなど、事前の準備を進めていく必要がある。</li> </ul>

## 3 施策を構成する事務事業

番号	事務事業名	担当課	事業費(千円)			今後の方向性	
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	成果	コスト
1	市民スポーツ振興事業	社会教育スポーツ課	6,811	5,013	予算対応	拡充	拡大
2	競技力向上事業	社会教育スポーツ課	20,408	20,727	予算対応	現状維持	現状維持
3	健康スポーツ推進事業	社会教育スポーツ課	3,213	5,318	予算対応	拡充	縮小
4	国民スポ大会開催推進事業	国民スポーツ大会推進室	-	1,000	予算対応	拡充	拡大
5	体育施設管理運営事業	社会教育スポーツ課	47,881	57,605	予算対応	拡充	拡大
6	体育施設整備事業(ハード)	社会教育スポーツ課	28,941	15,455	101,442	拡充	拡大
7	総合体育館運営事業	社会教育スポーツ課	103,448	101,523	予算対応	拡充	拡大

## 5 事後評価

施策指標の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ施設利用者数は、ここ数年、順調に伸びているが、大きな要因としては、コロナ5類移行後、人が集うことに対する警戒感が薄くなってきた影響によるものと考えられる。</li> <li>・スポーツに親しむ20歳以上の割合や主観指標は微減もしくは横ばいであるが、数字を伸ばすためには、本格的に競技スポーツに取り組む機会の創出以外に、ファミリースポレクフェスティバルのように、家族等で気軽に身体を動かせる場をつくり、底辺の拡大を行うこと必要と考える。</li> </ul>
施策の定性評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで自分の体力づくりや健康づくりのために競技スポーツに取り組んできた団体等が、部活動の地域移行に向けて、指導者側で協力していただけるようなしくみづくりが必要となっている。</li> <li>・信州やまなみ国スポ・全障スポの開催に向けては、先催地の実績等を参考に、実行委員会の設立や実施計画の概略を作成のうえ、予算の見込みの算出を早急に取り組む必要がある。</li> <li>・各種体育施設の老朽化が目立ってきているが、コロナ禍以降は施設利用者が増えてきているため、限られた資源の中で、優先的に投資する施設を見極める必要が生じている。</li> </ul>

評価者	所属	交流文化部	職名	部長	氏名	上條 史生
施策担当課長	所属	社会教育スポーツ課	氏名	上村 英文		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	市民スポーツ振興事業				担当課	社会教育スポーツ課				施策	3-4				
目的	対象	スポーツをする市民								新規/継続	継続				
	意図	市民のスポーツ・体力づくりに対する意識向上により運動の習慣づけを図る。								会計区分	一般				
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度						
	○指導者向け講習会の開催 ○国民スポーツ大会の準備 ○松本山雅フェスティバル事業 ○各種激励金交付 ○スポーツ活動への補助				○指導者向け講習会の開催 ○松本山雅フェスティバル事業 ○各種激励金交付 ○スポーツ活動への補助				○指導者向け講習会の開催 ○松本山雅フェスティバル事業 ○各種激励金交付 ○スポーツ活動への補助						
	決算額	(千円)	6,811	予算額	(千円)	5,013	計画額	(千円)	5,028						
	青少年スポーツ全国大会等激励金	2,810	青少年スポーツ全国大会等激励金	2,990	青少年スポーツ全国大会等激励金	2,990									
松本山雅フェスティバル開催負担金	500	松本山雅フェスティバル開催負担金	500	松本山雅フェスティバル開催負担金	500										
壮行会等開催負担金	2,070	その他	1,523	その他	1,538										
その他	1,431														
事業費・財源	人件費(会計年度任用職員)				0	人件費(会計年度任用職員)				0	人件費(会計年度任用職員)				0
	特定	0	一般	6,811	特定	0	一般	5,013	特定	0	一般	5,028			

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	C
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	

今後の方向性							
成果	拡充		④		②	①	✓
	現状維持		③		⑤		
	縮小		⑥				
	休廃止	⑦					
コスト		皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の地域移行については、各種目で進捗が異なり、10月からバドミントンとソフトテニスが試行的に移行開始となる。練習会場の確保など学校教育課と連携し、事業を進めている。</li> <li>松本山雅フェスティバルは、今年度で10回目の節目の大会となる。昨年までは1日開催であったが、本年度は2日間の開催とし、小学4年生10チーム、小学2年生20チームを市内及び県内外からチームを集め、大会準備を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動地域移行に向けて、関係者との意見交換や協議を進めている状況であるが、指導者の人材確保や金銭面、移動手段などについて課題が山積している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休日の部活動地域移行を推進するため、市スポーツ協会に所属する競技部や予約システムに登録のある地域スポーツクラブ等との連絡調整を進めている。また、HP構築に係る情報や指導者などの人材が確保できるよう情報収集を行う。</li> <li>松本山雅フェスティバルは、新年度から実行委員会の運営主体を他団体へ移管できるよう調整を進める。</li> </ul>

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>松本山雅フェスティバルについては、令和9年度の自走化に向けて調整を進めること。</li> <li>備品購入を認めるが、特定の利用者のみが使用するものであることから、総合体育館と同様に使用料を徴収すること。</li> </ul>	第2次評価	—
-------	--	-------	---

事務事業名	市民スポーツ振興事業	課名	社会教育スポーツ課
-------	------------	----	-----------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価)

(千円)

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
青少年スポーツ全国大会等激励金		2,990		2,990		2,990
松本山雅フェスティバル開催負担金		500		500		500
全国大会等激励金【拡大+50】		300		300		300
消耗品費【拡大+20】		187	▲20	167		167
備品購入費【+250】		250	▲53	197		197
市民スポーツ活動補助金【拡大+10】		397		397		397
その他		477		477		477
				0		0
人件費(会計年度任用職員)				0		0
事業費合計		5,101	▲73	5,028	+0	5,028
財源内訳	国庫支出金 (名称)			0		0
	県支出金 (名称)			0		0
	地方債 (名称)			0		0
	その他 (名称)			0		0
	一般財源	5,101	▲73	5,028	+0	5,028

○評価指標

評価指標(単位)	青少年スポーツ大会等激励金交付数			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		76	65	
実績値(事後評価)	56	100		
目標値		80	85	90
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・毎年、交付件数はバラツキがある。今年度は、優秀な成績を残す選手が多い年だった。			
評価指標(単位)	各種スポーツ教室の参加人数(人)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		150	100	
実績値(事後評価)	100	0		
目標値		100	110	120
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・前田大然選手を招いたサッカークリニックの開催が実施できたことにより、目標値を上回ることができた。			

○事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<p>・指導者向け講習会の開催については、部活動の地域移行に係る地域の指導者育成を目的に実施予定であったが未着手となった。</p> <p>・サッカー日本代表である「前田大然選手」を招き、小坂田公園サンコグリーンフィールドを会場に、子どもたちを対象としたサッカークリニックを実施した。</p> <p>・松本山雅フェスティバルは、松本歯科大学陸上競技場で開催した。</p> <p>・パリ五輪開催に伴う出口姉妹の壮行会、凱旋パレードなど一連のイベントを実施した。</p>	<p>・講習会については、種目別地域移行検討会による指導者育成の実施方針が明確にならなかったため、実施を見送ることとなった。</p> <p>・テレビ松本創立50周年記念特別企画の共催として6/23に開催した前田大然選手によるサッカークリニックでは、あいにくの天候となったが、約100人の参加者とトップ選手が接する機会を提供することができた。</p> <p>・松本山雅フェスティバルは、県内外から8チーム(143人)の参加があった。</p> <p>・パリ五輪関連イベントは、6/19に実行委員会を立ち上げ、壮行会(7/6:参加者約300人)、パブリックビューイング(7/28,29:参加者約200人)、市長表敬・凱旋パレード(8/14:参加者約2万人)を実施することができた。</p>	<p>・部活動地域移行に向けた取組がこれから本格化していく中で、指導者向けの講習会(教室)の開催がこれまで以上に必要となってくるのが想定される。種目によって異ならず、指導者という立場の者に対して共通する内容を提供できるように検討する必要がある。</p> <p>・松本山雅フェスティバルについては、次年度に第10回目を迎えることから、今後の大会の在り方や運営方法について検討していく必要がある。</p>

作成担当者	交流文化部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主事	氏名	塚原 彩香	連絡先(内線)	3120
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	上村 英文	担当係長	スポーツ推進係長	氏名	長島 峰行		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	競技力向上事業				担当課	社会教育スポーツ課				施策	3-4	
目的	対象	スポーツをする市民								新規/継続	継続	
	意図	大会の開催により競技スポーツの普及と推進を図る。								会計区分	一般	
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○スポーツ振興事業(スポ少、元気っ子、市民スポーツ祭) ○地区スポーツ振興事業(10地区) ○スポーツ協会活動補助				○スポーツ振興事業(スポ少、元気っ子、市民スポーツ祭) ○地区スポーツ振興事業(10地区) ○スポーツ協会活動補助				○スポーツ振興事業(スポ少、元気っ子、市民スポーツ祭) ○地区スポーツ振興事業(10地区) ○スポーツ協会活動補助			
	決算額 (千円) 20,408				予算額 (千円) 20,727				計画額 (千円) 20,727			
	スポーツ振興事業委託料		6,063		スポーツ振興事業委託料		6,063		スポーツ振興事業委託料		6,063	
地区スポーツ振興事業委託料		4,818		地区スポーツ振興事業委託料(10地区)		4,818		地区スポーツ振興事業委託料(10地区)		4,818		
スポーツ協会活動補助金		9,527		スポーツ協会活動補助		9,846		スポーツ協会活動補助		9,846		
事業費・財源	人件費(会計年度任用職員) 0				人件費(会計年度任用職員) 0				人件費(会計年度任用職員) 0			
	特定	0	一般	20,408	特定	0	一般	20,727	特定	0	一般	20,727

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	B
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③		⑤	✓
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト		皆減	縮小	現状維持	拡大	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ協会に委託している市民スポーツ祭は、本年度も昨年と同じ競技団体の大会が予定されている。</li> <li>・地区スポーツ協会の地区行事等の取り組みについては、各地区で運営や実施方法を工夫し、多くの市民が参加できる事業を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民スポーツ祭などの実施に取り組むことを継続するとともに、市民が運動やスポーツに触れるきっかけとなるような取り組みを継続していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育施設使用料のキャッシュレス決済対応など予約方法の見直しを進めることで、利用環境の改善を進める。</li> <li>・最低賃金の改定により、年々、人件費が高騰しているため、効率的、効果的に協会運営ができるよう改善を働きかけていく。</li> </ul>

第1次評価	・委託料に係る各団体の事業報告等を確認し、適正な会計処理が行われていることを常に把握すること。	第2次評価	—
-------	---	-------	---

事務事業名	競技力向上事業	課名	社会教育スポーツ課
-------	---------	----	-----------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価)

(千円)

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
スポーツ振興事業委託料		6,063		6,063		6,063
地区スポーツ振興事業委託料(10地区)		4,818		4,818		4,818
スポーツ協会活動補助		9,846		9,846		9,846
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
人件費(会計年度任用職員)				0		0
事業費合計		20,727	+0	20,727	+0	20,727
財源内訳	国庫支出金 (名称)			0		0
	県支出金 (名称)			0		0
	地方債 (名称)			0		0
	その他 (名称)			0		0
	一般財源	20,727	+0	20,727	+0	20,727

○ 評価指標

評価指標(単位)	市民スポーツ祭参加者数(人)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		1,352	1,572	
実績値(事後評価)	1,674	1,754		
目標値		2,000	2,100	2,200
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・前年度よりも参加者数は増加したが、各種目で競技人口が減少傾向にあることから、目標値達成が困難であった。			
評価指標(単位)	スポーツ協会登録団体数			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		40	41	
実績値(事後評価)	41	41		
目標値		40	40	40
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・各団体とも競技者数は減少傾向にあるが、スポーツ協会登録団体は、団体数が減るまでの競技者数の減少はない。			

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
・本年度の市民スポーツ祭は、競技種目(20種目)のうち19種目が開催され、参加者は、ほぼ前年度並みであった。	・市民スポーツ祭は、19種目1,754人の参加者があった。1種目(ゴルフ)については、参加者が集まらなかったため中止となった。 ・地区スポーツ協会主催のイベントは、コロナ後、地区によってはイベントが縮小・中止となっているところもあるが、防災訓練と同時開催をしたり、種目の変更をしたりと工夫を凝らして実施されている。	・地区スポーツ協会への補助金については、各地区の実施状況や運営内容を確認し、補助金の在り方を改めて精査する必要がある。

作成担当者	交流文化部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主事	氏名	塚原 彩香	連絡先(内線)	3120
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	上村 英文	担当係長	スポーツ推進係長	氏名	長島 峰行		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	健康スポーツ推進事業				担当課	社会教育スポーツ課		施策	3-4									
目的	対象	市民						新規/継続	継続									
	意図	市民の健康体力づくりを推進することによりスポーツの普及・推進を図る。						会計区分	一般									
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度									
	○スポーツ推進委員協議会 ○スポーツ普及員協議会 ○ファミリースポレクフェスティバル				○スポーツ推進委員協議会 ○スポーツ普及員協議会 ○ファミリースポレクフェスティバル				○スポーツ推進委員協議会 ○スポーツ普及員協議会 ○ファミリースポレクフェスティバル									
	決算額	(千円)	3,213	予算額	(千円)	5,318	計画額	(千円)	4,054									
	スポーツ推進委員報酬		1,215	スポーツ推進委員報酬		1,440	スポーツ推進委員報酬		1,440									
			スポーツ普及員報酬		476	スポーツ普及員報酬		560	スポーツ普及員報酬		560							
			ファミリースポレクフェスティバル経費		700	ファミリースポレクフェスティバル経費		700	ファミリースポレクフェスティバル経費		700							
			その他		822	その他		2,618	その他		1,354							
事業費・財源	人件費(会計年度任用職員)				0				人件費(会計年度任用職員)				0					
	特定		0	一般		3,213	特定		0	一般		5,318	特定		0	一般		4,054

○事中評価

評価視点	妥当性	2	やや低い	総合評価	C
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	

今後の方向性						
成果	拡充		④	✓	②	①
	現状維持		③		⑤	
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト		皆減	縮小	現状維持	拡大	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員協議会、スポーツ普及員協議会ともに、毎月定例会を実施し、情報共有を図りながら、スポーツ振興に関する事業に取り組んでいる。</li> <li>・ファミリースポレクフェスティバルについては、ボランティアスタッフ不足などの課題があったが、本年度から東京都市大学塩尻高等学校の協力が得られ、大勢の生徒がボランティアスタッフとして参加してしてくれた。また、高校施設を利用させていただき、会場規模を拡大して実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリースポレクフェスティバルについては、天候にも恵まれ昨年を上回る参加者が来場したが、それに対応するためスタッフの人数を増やしており、市の補助金と協賛金収入での運営(講師謝金、ボランティアスタッフ弁当代等)が難しくなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員、スポーツ普及員については、令和9年度にメンバーの改選があることを見据え、役員構成など事前の準備を進めていく必要がある。また、両組織の活動が好循環となるよう体制を維持していく。</li> <li>・ファミリースポレクフェスティバルは、幅広い年齢層の参加者が見込めるよう地域資源を一層活用した内容の検討を進めていく。</li> <li>・今年度から市内高校生のボランティアスタッフも増え、必要な経費が高いため、従来の予算額内での開催が困難となってきている。</li> </ul>

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリースポレクフェスティバルについては、前年度同額の予算で実施すること。</li> <li>・健康スポーツ推進事業協力者謝礼については、近年の執行率を踏まえて予算額を見直す。</li> </ul>	第2次評価	—
-------	--	-------	---

事務事業名	健康スポーツ推進事業	課名	社会教育スポーツ課
-------	------------	----	-----------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価) (千円)

項目	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
スポーツ推進委員報酬	1,440		1,440		1,440
スポーツ普及員報酬	560		560		560
ファミリースポレクフェスティバル経費	800	▲100	700		700
旅費【拡大+122】	378		378		378
被服費【縮小▲1,148】	40		40		40
健康スポーツ推進事業協力者謝礼	436	▲100	336		336
その他	600		600		600
			0		0
人件費(会計年度任用職員)			0		0
<b>事業費合計</b>	<b>4,254</b>	<b>▲200</b>	<b>4,054</b>	<b>+0</b>	<b>4,054</b>
財源内訳	国庫支出金 (名称)		0		0
	県支出金 (名称)		0		0
	地方債 (名称)		0		0
	その他 (名称)		0		0
	一般財源	4,254	▲200	4,054	+0

○ 評価指標

評価指標(単位)	ファミリースポレク参加者数			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		1,500	1,700	
実績値(事後評価)	1,200	1,500		
目標値		1,500	1,600	1,700
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・参加者数の増員の要因は、SNSなどによる情報の拡散と、高校生の協力と考えられる。			
評価指標(単位)				
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				
(事後評価) 指標実績値の要因分析				

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員協議会及びスポーツ普及員協議会は、ともに毎月定例会を実施し、委員同士の情報共有を図りながら、本市のスポーツ振興に関する事業へ取り組んだ。</li> <li>・ファミリースポレクフェスティバルは、5/12に中央スポーツ公園、桔梗小学校を会場として開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリースポレクフェスティバルは、天候にも恵まれ、イベント開催までに5回の実行委員会を開催した。当日は、ボランティアを含めた約1,500人の皆さんに参加・協力いただいた。また、さらなるイベント発展のため、次年度からは東京都市大学塩尻高校とも連携し、規模を拡大して実施できるように計画・準備を進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前から継続した課題となっているスポーツ推進委員と普及員の統合については、令和10年の国スポ開催以降に本格的に取り組むため、今後の組織の在り方について継続した検討が必要である。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主事	氏名	塚原 彩香	連絡先(内線)	3120
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	上村 英文	担当係長	スポーツ推進係長	氏名	長島 峰行		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催推進事業			担当課	国民スポーツ大会推進室			施策	3-4			
目的	対象	市民						新規/継続	継続			
	意図	大会に向けた実行委員会の立上げ及び市民の機運醸成、円滑な大会運営のための準備を進める						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
					○国民スポーツ大会の準備 ・実行委員会負担金				○国民スポーツ大会の準備 ・実行委員会負担金			
事業費・財源	決算額 (千円)		予算額 (千円)		1,000	計画額 (千円)		3,030				
			実行委員会負担金		1,000	実行委員会負担金		3,030				
	人件費(会計年度任用職員)		0		人件費(会計年度任用職員)		0		人件費(会計年度任用職員)		0	
	特定	0	一般	0	特定	0	一般	1,000	特定	0	一般	3,030

○事中評価

評価視点	妥当性	2	やや低い	総合評価	C
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性							
成果	拡充		④		②		① ✓
	現状維持		③		⑤		
	縮小		⑥				
	休廃止	⑦					
コスト		皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
—	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央競技団体からの指摘事項(更衣室、関係者控室等の諸室確保、練習会場の整備、駐車場、輸送など)の課題解決に向けて解決策を検討する必要があるが、予算を伴うため交渉に苦慮している。</li> <li>大会全体に係る費用の算出を早急実施する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種計画の策定及び事業費の算出を行う必要がある。</li> <li>競技団体と運営に関する細部を調整する必要がある。</li> </ul>

第1次評価	・実行委員会負担金は、総務費(会議費、事務局費)と大会協議運営費(会場設計業務委託料)のみの予算計上とする。会場設計に集中して取り組むこと。	第2次評価	・確実にダウンサイジングを検討し、可能な限りコスト抑制に努めること。
-------	--	-------	------------------------------------

事務事業名	国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催推進事業	課名	国民スポーツ大会推進室
-------	----------------------------	----	-------------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価) (千円)

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
実行委員会負担金【拡大】		5,000	▲1,970	3,030		3,030
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
				0		0
人件費(会計年度任用職員)				0		0
事業費合計		5,000	▲1,970	3,030	+0	3,030
財源内訳	国庫支出金 (名称)			0		0
	県支出金 (名称)			0		0
	地方債 (名称)			0		0
	その他 (名称)			0		0
	一般財源	5,000	▲1,970	3,030	+0	3,030

○ 評価指標

評価指標(単位)				
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				
(事後評価) 指標実績値の要因分析				
評価指標(単位)				
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				
(事後評価) 指標実績値の要因分析				

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
—	—	—

作成担当者	交流文化部 国民スポーツ大会推進室	職名	主任	氏名	塩原 一徳	連絡先(内線)	3127
最終評価者	交流文化部長	氏名	上條 史生	担当係長	国民スポーツ大会推進室長	氏名	長島 峰行

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	体育施設管理運営事業				担当課	社会教育スポーツ課			施策	3-4		
目的	対象	スポーツをする市民						新規/継続	継続			
	意図	市民の体力づくり、生きがいづくりのための場を提供						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度			令和7年度			令和8年度					
	○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○公共施設予約システムの運用 ○体育施設樹木管理			○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○公共施設予約システムの運用 ○体育施設樹木管理			○体育施設の管理委託 ○光熱水費等の経常経費 ○公共施設予約システムの運用 ○体育施設樹木管理					
事業費・財源	決算額	(千円)	47,881	予算額	(千円)	57,605	計画額	(千円)	59,782			
	体育施設管理委託料		17,358	体育施設管理委託料		18,266	体育施設管理委託料		18,266			
	電力・上下水道使用料		12,608	電力・上下水道使用料		13,557	電力・上下水道使用料		13,557			
	予約システム等使用料		5,241	予約システム等使用料		5,241	予約システム等使用料		5,241			
	その他		7,692	LED照明使用料		4,234	LED照明使用料		12,702			
	人件費(会計年度任用職員)		4,982	人件費(会計年度任用職員)		6,293	人件費(会計年度任用職員)		10,016			
	特定	13,181	一般	34,700	特定	18,000	一般	39,605	特定	18,000	一般	41,782

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	総合評価	B
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	✓
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	

今後の方向性								
成果	拡充		④		②		①	✓
	現状維持		③		⑤			
	縮小		⑥					
	休廃止	⑦						
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大				

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
・体育施設周辺の環境整備については、予算の範囲内でシルバー人材センターや専門業者に委託し実施しているが、近隣住民からの落ち葉や枝落ちなどに関する苦情が後を絶たない。	・シルバー人材センターの委託分が、作業員1名減となってしまったために、樹木等の成長に作業時間が追いつかず、きれいな環境が保持できていない。 ・本年度は例年以上にアメシロの発生率が高く、自営による消毒作業に併せ、業者委託による実施もしているが、今後の発生状況によっては予算内で対応できるか心配される。	・来年度は9月末に予約システムの更新時期を迎えることから、電子決済の導入などの検討を進め、利用しやすい環境を整えていく必要がある。 ・本年度、学校体育施設と一部の市内体育施設の照明がLED化となり、来年度には市内全体育施設がLED化となることから、リース代を毎年度計上していく。 ・年々、各施設の老朽化が著しく、修繕費や消耗品費の予算は3ヶ月ほどで底をついてしまう状況である。緊急性が高い修繕などは予算流用で対応しているが、予算に余裕がなく、安心・安全な施設管理が困難となっていることから、修繕・消耗品費の増額が必要である。外注による修繕費では費用が高いため、自営で対応するにも現在の予算額ではまかないきれいな状態。

第1次評価	・予約システムの更新については、キャッシュレス決済導入の詳細が検討しきれないことから再検討すること。 ・施設管理委託料は前年度同額の予算額とする。	第2次評価	—
-------	--	-------	---

事務事業名	体育施設管理運営事業	課名	社会教育スポーツ課
-------	------------	----	-----------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価)

(千円)

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後	
体育施設管理委託料		18,266		18,266		18,266	
上下水道使用料		3,557		3,557		3,557	
施設管理委託料【拡大+140】		2,547	▲140	2,407		2,407	
予約システム等使用料(12月分)		5,241		5,241		5,241	
予約システムバージョン移行構築費【新規】		10,660	▲10,660	0		0	
LED照明使用料【拡大+8,468 4月→通年計上】		12,702		12,702		12,702	
電力使用料		10,000		10,000		10,000	
その他		7,769	▲160	7,609		7,609	
人件費(会計年度任用職員)				0		0	
事業費合計		70,742	▲10,960	59,782	+0	59,782	
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0	
	県支出金	(名称)		0		0	
	地方債	(名称)		0		0	
	その他	施設使用料等	18,000		18,000		18,000
	一般財源		52,742	▲10,960	41,782	+0	41,782

○評価指標

評価指標(単位)	体育施設の利用者数(学校体育施設を除く)(人)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		109,900	71,299	
実績値(事後評価)	166,563	182,669		
目標値		170,000	175,000	180,000
(事後評価)指標実績値の要因分析	・松本市及び広域公園体育施設の改修により利用者が本市に流れてきた特殊要因はあるものの、利用者数は、コロナ禍前の人数に回復してきている。			
評価指標(単位)	予約システムの新規登録団体数			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		42	43	
実績値(事後評価)	78	73		
目標値		60	60	60
(事後評価)指標実績値の要因分析	・登録団体数は、多少の変動はあるが一定の数で推移している。現時点では、競技者は減少しているものの、団体数が急激に減るまでの傾向にはないと考えられる。			

○事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<p>・シルバー人材センター等に委託し、施設の除草・支障木の剪定等を実施し、施設の機能維持を図った。</p> <p>・樹木管理について、計画的に業者へ依頼して伐採を行った。予算で補えない箇所については職員が対応した。</p> <p>・本年度はアメシロの発生が確認されたため、発生しそうな施設の見回りを強化し、発見時には業者や職員による消毒作業を実施した。</p>	<p>・限られた予算の中で優先順位を付けながら樹木管理等を実施するとともに、予算で補いきれない箇所は、職員が施設に向いて剪定作業を行うなどして施設の適正な維持管理に努めることができた。</p>	<p>・樹木の成長に伴い、職員の手が及ばない枝打ち箇所が多数出てきている。限られた予算の中で優先順位を付けながら実施しているが、近隣住民からの苦情もあるため、継続的な予算計上が必須である。</p> <p>・想定していない金額が大きい修繕が発生した場合は、流用や補正での対応をしているが、年々、施設の老朽化が進む中で、軽微な修繕では済まないものが増えており、今後の予算措置に配慮を求める必要がある。</p>

作成担当者	交流文化部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主事	氏名	塚原 彩香	連絡先(内線)	3120
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	上村 英文	担当係長	スポーツ推進係長	氏名	長島 峰行		

令和7年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名	体育施設整備事業(ハード事業)				担当課	社会教育スポーツ課		施策	3-4			
目的	対象	体育施設利用者						新規/継続	継続			
	意図	市民に安全で快適なスポーツ環境を提供する。						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○中央スポーツ公園 ・トイレ解体、改修工事 ○市立体育館 ・駐車場浸透柵設置工事				○市立体育館の改修設計業務 ・吊天井の改修計画 ・各種調査業務委託 ・工事計画、仮設計画 等 ○市立体育館併設柔道場雨漏り修繕工事 ○市内体育施設LED化工事設計業務委託				○市内体育施設LED化工事			
事業費・財源	決算額 (千円)		28,941		予算額 (千円)		15,455		計画額 (千円)		101,442	
	体育施設改修工事		28,941		市立体育館 調査業務委託		6,589		LED化工事		101,442	
					雨漏り修繕工事		4,466					
				LED化工事設計業務委託		4,400						
特定		21,600		一般		7,341		特定		0		
								一般		15,455		
								特定		84,759		
								一般		16,683		

○事中評価

評価視点	有効性	3	やや高い	総合評価	A
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	

今後の方向性								
成果	拡充		④		②		①	✓
	現状維持		③		⑤			
	縮小		⑥					
	休廃止	⑦						
		皆減	縮小	現状維持	拡大			
コスト								

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
・LED化工事については、設計業務委託により、工事費が明確になった。	・LED化工事は、当初の見積額から大きく差が生じている。 ・市立体育館老朽化診断を行ったが、明確な耐用年数が診断されず、今後、施設の廃止時期など判断が難しくなっている。	・利用者への工事期間の周知を行い、安全性・利用面で迷惑がかからない工事を進めるとともに、今後の電気料金の推移を確認し、予算計上に反映させていく。 ・市立体育館の今後について、特定天井の改修、LED化、トイレ改修、電気設備等の改修工事を実施する場合、起債を充当することになるため、起債の償還期間中は施設が利用可能な状態でなければならない。大規模改修を実施しない場合は、標準耐用年数65年を迎える、7年後に廃止とする判断をしなければならない。

第1次査定	・要求のとおり。	第2次査定	—
-------	----------	-------	---

○ 実施計画補正要求

(千円)

年度	概要		項目(起債対象に※)		計画額	補正要求額	補正後額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和8年度	○市内体育施設LED化工事		LED化工事	※	45,000	+56,442	101,442		101,442		101,442
							0		0		0
							0		0		0
							0		0		0
							0		0		0
							0		0		0
			事業費合計		45,000	+56,442	101,442	0	101,442	0	101,442
	財源内訳	国庫支出金	学校施設環境改善交付金	1/3	16,466	+18,393	34,859		34,859		34,859
		県支出金	(補助金名)				0		0		0
		地方債1	学校施設等整備事業債	75%	21,400	+28,500	49,900		49,900		49,900
地方債2		(地方債名)				0		0		0	
地方債3		(地方債名)				0		0		0	
その他		(名称)				0		0		0	
一般財源				7,134	+9,549	16,683	0	16,683	0	16,683	

○事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<p>・ふるさとの丘のトイレ棟撤去、管理棟のトイレ改修、管理棟内の使用不可となっていたシャワー室を改修し利用可能とした。</p> <p>・当初、テニスコート管理棟の改修を行う予定であったが、競技団体からの申し入れにより工事内容を変更し、未実施となった。</p>	<p>・中央スポーツ公園ふるさとの丘にある、使用不可となっていたトイレ棟の撤去を実施した。また、管理棟のトイレ・シャワールームの改修工事が終了したことにより、利用者へのサービス向上に繋がった。</p>	<p>・各施設、改修が必要な箇所がバラバラであることから、緊急性・安全性を考慮し、優先付けを行う中で個別施設計画で策定した修繕計画を更新していく必要がある。</p>

○評価指標

評価指標(単位)	改修工事(LED含む)発注数			
	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)	-			
実績値(事後評価)	1			
目標値	2			
(事後評価)指標実績値の要因分析	・当初予定していた工事内容が変更となった。			

作成担当者	交流文化部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主事	氏名	塚原 彩香	連絡先(内線)	3120
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	上村 英文	担当係長	スポーツ推進係長	氏名	長島 峰行		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	総合体育館運営事業				担当課	社会教育スポーツ課			施策	3-4		
目的	対象	施設を利用する市民						新規/継続	継続			
	意図	施設の稼働率の向上、利用者満足度の向上						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業				○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業				○指定管理による施設管理 ○子どもの運動習慣改善事業			
事業費・財源	決算額	(千円)	103,449	予算額	(千円)	101,523	計画額	(千円)	104,768			
	指定管理料		97,717	指定管理料		97,760	指定管理料(上限)		100,980			
	運動習慣事業委託料		1,805	運動習慣事業委託料		2,000	運動習慣事業委託料		2,000			
	その他		3,927	イベント委託料(国スポ開催機運醸成事業)		1,000	イベント委託料(国スポ開催機運醸成事業)		1,000			
					その他		763	その他		788		
	人件費(会計年度任用職員)		0	人件費(会計年度任用職員)		0	人件費(会計年度任用職員)		0			
特定	1,500	一般	101,949	特定	1,500	一般	100,023	特定	2,000	一般	102,768	

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	B
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	✓
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	

今後の方向性							
成果	拡充		④		②	①	✓
	現状維持		③		⑤		
	縮小		⑥				
	休廃止	⑦					
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大			

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に引き続き、指定管理者と月1回の定例会を設け、施設管理状況や利用者からの要望の共有が図られた。</li> <li>・スポーツ協会に委託している市民を対象とした大会について、会場が他団体の早期予約で既に埋まっており利用できないとの意見に対し、予約ルールの変更を行うことにより、利用しやすい環境の整備を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期の指定管理者選定に向けて、現在、準備を進めている。12月議会議決後は、今まで以上の利用率向上に向けた取り組みを実施するため、次期指定管理者と協議を進めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次期指定管理者から提案された事業を定期的にモニタリングし、事業の進捗と成果を適宜、評価していく必要がある。特に、平日昼間の利用者が少ないことが大きな課題であり、利用率向上に繋がる取り組みを共に研究していく。</li> <li>・3年後に控えた国スポ大会開催に向けて、競技団体や次期指定管理者と協議を進め、周辺環境整備の計画を進める。また、競技力向上や市民の機運醸成に向け、トップアスリートを招いたクリニックや試合の観覧などを実施する。</li> <li>・早期予約が市民が優先でないことに伴い、市民の利用率が低いことが指摘されており、予約方法の改善を来年度から実施するよう準備を進めているが、次のステップとして利用料金の軽減について意見・要望が予想される。今後の方針をどうしていくか、早期に検討していく必要がある。</li> </ul>

第1次評価	・指定管理料は、次期指定管理者の候補者による提案額とする。	第2次評価	—
-------	-------------------------------	-------	---

事務事業名	総合体育館運営事業	課名	社会教育スポーツ課
-------	-----------	----	-----------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価)

(千円)

項目	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後	
指定管理料【拡大・上限】	106,200	▲5,220	100,980		100,980	
運動習慣事業委託料	2,000		2,000		2,000	
イベント委託料(国スポ開催機運醸成事業)	1,000		1,000		1,000	
その他	788		788		788	
			0		0	
			0		0	
			0		0	
			0		0	
人件費(会計年度任用職員)			0		0	
<b>事業費合計</b>	<b>109,988</b>	<b>▲5,220</b>	<b>104,768</b>	<b>+0</b>	<b>104,768</b>	
財源内訳	国庫支出金 (名称)		0		0	
	県支出金 (名称)		0		0	
	地方債 (名称)		0		0	
	その他 施設命名権【拡大見込】	2,000		2,000		2,000
	一般財源	107,988	▲5,220	102,768	+0	102,768

○ 評価指標

評価指標(単位)	総合体育館大会実施数			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		38	31	
実績値(事後評価)	33	52		
目標値		50	60	60
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・松本市立体育館及び広域体育館が改修工事で利用できなかったため、大会での利用等が流れてきた。			
評価指標(単位)	総合体育館利用者数			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		59,890	45,722	
実績値(事後評価)	110,511	124,980		
目標値		115,000	120,000	125,000
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・上記指標の要因やトレーニングルームの利用者数の増加が要因と考えられる。			

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者と月1回の定例会を実施し、利用者の声や施設管理、自主事業等の状況について、定期的に情報共有を図った。</li> <li>子どもの運動習慣事業(ヘキサスロン)を市内小学校で実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの運動習慣事業(ヘキサスロン)は、全9校573人の児童に対して実施した。</li> <li>令和10年開催の国民スポーツ大会に向けて、競技力向上と市民の機運醸成を目的に、バドミントン選手の松友美佐紀さんを招き、クリニックを開催した。小中高校生65人の参加があり、通常では体験できないトップアスリートからのアドバイス等をもらうことで、スキルアップにつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定例会の実施により、指定管理者との情報共有の場を引き続き設けていく必要がある。</li> <li>平日昼間の稼働率が低く、指定管理者が自主事業を実施しているが、利用者の関心が薄い。利用促進のための取組を、指定管理者とともに研究していく。</li> <li>次年度で第1期の指定管理期間が終了するため、第2期目の指定管理者募集に向けた検討・準備を進める。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	社会教育スポーツ課	スポーツ推進係	職名	主事	氏名	塚原 彩香	連絡先(内線)	3120
最終評価者	社会教育スポーツ課長	氏名	上村 英文	担当係長	スポーツ推進係長	氏名	長島 峰行		

# 令和7年度 施策評価シート

## 1 施策の位置付け

基本戦略	A	未来共育	戦略分野	3	伝統・文化芸術・スポーツ・生涯学習	ありたい姿	一人ひとりが日常を離れ好きな活動で自身と次世代の笑顔あふれる豊かな生活をつくり、このことが新たなつながりを生んでいる
施策	3-5	文化財などが知られ、保存・活用されるとともに、他分野と横断的につながり、相互に知る機会が得られる					

## 2 施策指標(KPI)

指標名	基準値 基準年度	達成値			目標値
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和8年度
客観 文化財関連施設の総入館者数	60,297人 R4	97,405人			66,000人
主観 歴史文化遺産を活用した交流活動が盛んに行われていると感じる市民の割合	41.9% R5	38.0%			45.9%
ブランド 奈良井宿の入り込み客数	40.5万人 R4	51.0万人			61万人
	平出遺跡の入り込み客数	4.2万人 R4	4.8万人		5万人

## 4 事中評価(事業構成の適正性)

優先する取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・R8の木曾平沢重伝建選定20周年及びR10の奈良井50周年に向けて機運の醸成に取り組む。全国の重伝建地区で唯一の「漆工町・木曾平沢」及び宿場町として全国屈指の規模を誇る「奈良井」の価値を更に高め、未来に向けたメッセージの発信、地域愛の醸成を図り、次世代に継承していく。</li> <li>・平出遺跡公園内の復元住居は、経年劣化により破損が著しいものについて、見学者の安全性の確保と学習機会の提供のために年次計画的に改修を行っていく。</li> <li>・老朽化、耐震力不足等の課題が山積する平出博物館について、全庁的に検討し方向性を明らかにする。</li> <li>・古田晁記念館の施設の新たな活用方法について、地域住民や北小野地区の地域づくり計画ミーティングでの意見を参考に検討を進めていく必要がある。</li> <li>・施設の維持管理のための補修費用は、定期的に予算計上する必要がある。</li> </ul>
劣後・見直しする取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・檜川地区文化施設運営事業のうち木曾漆器館について、漆芸学院の老朽化に伴う代替施設の一つとして検討を進めたい。また、木曾くらしの工芸館の一部事業と重なる部分もあることから、3施設のあり方についても議論したい。</li> </ul>

## 3 施策を構成する事務事業

番号	事務事業名	担当課	事業費(千円)			今後の方向性	
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	成果	コスト
1	文化財管理事業	文化財課	1,865	2,666	予算対応	現状維持	縮小
2	短歌館運営事業	文化財課	11,336	9,883	予算対応	現状維持	縮小
3	自然博物館運営事業	文化財課	10,783	13,480	予算対応	拡充	拡大
4	重伝建整備事業	文化財課	25,450	18,744	25,224	現状維持	現状維持
5	檜川地区文化施設運営事業	文化財課	15,084	17,429	予算対応	現状維持	縮小
6	平出博物館運営事業	平出博物館	13,181	15,757	予算対応	拡充	縮小
7	新平出博物館整備事業	平出博物館	2,935	4,543	-	現状維持	現状維持
8	平出遺跡公園事業(ソフト)	平出博物館	9,711	11,643	予算対応	現状維持	縮小
9	平出遺跡公園事業(ハード)	平出博物館	0	8,732	15,158	現状維持	現状維持
10	埋蔵文化財保護事業	平出博物館	10,570	31,226	予算対応	拡充	縮小
11	本洗馬歴史の里運営事業	平出博物館	5,821	7,194	予算対応	拡充	拡大
12	古田晁記念館諸経費	図書館	1,834	5,238	予算対応	拡充	拡大

5 事後評価

施策指標の要因分析

・文化施設のうち、自然博物館については、小坂田公園リニューアルの相乗効果により、過去最高に迫る来館者数を記録した。有料入館者の約9割が「ながの子育て家庭優待パスポート」の減免を受けており、入館への導入環境が整っている。

・市民交流センターの大規模改修工事による市立図書館本館の長期休館により、古田晁記念館の情報発信が低下し来館者の減少があったと考えられる。

・重伝建整備(補助事業)の計画的な推進により、歴史的町並みの価値の維持が図られ、檜川地区への来訪者数の回復に繋がっているが、「歴史文化遺産を活用した交流活動が盛んに行われていると感じる市民の割合」が減少している。これは、整備が進んでいない施設があることが要因と推察される。

・平出遺跡への誘客に関して、博物館独自のイベント以外に庁内の他部課や民間事業者とも積極的に連携を図ることで、遺跡公園の認知度の向上が図られ誘客数が増加したと考えられる。

施策の定性評価

・文化財の計画的な保存により、本市のブランド力の向上・維持が図られ、「塩尻」の発信に寄与している。平出遺跡、奈良井・木曾平沢の重伝建地区、7つの重文民家等、他に無いものを着実に保存・活用することで、「塩尻」というブランドの付加価値を高めている。

・伝建協のインスタグラム開設・運営、伝建制度50年記念事業を通じて、伝建制度を広く発信している。

・新平出博物館整備に向け、建設予定地である平出遺跡公園周辺の知名度が向上することは必須であり、今後も遺跡公園の利活用とともに現平出博物館で実施する企画展や講演会等を充実させ、市民にとって身近な博物館となるよう引き続き尽力したい。

・古田晁記念館文学サロンを北小野公民館で開催したところ、地域住民の参加もあったため、北小野地区の貴重な文化施設として住民に愛着を持たれるような運営を今後も継続していきたい。

評価者	所属	交流文化部	職名	部長	氏名	上條 史生						
施策担当課長	所属	文化財課	氏名	古畑 比出夫	所属	平出博物館	氏名	小松 学	所属	図書館	氏名	矢澤 昭義

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		文化財管理事業				担当課	文化財課			施策	3-5		
目的	対象	市民、文化財所有者						新規/継続		継続			
	意図	市内文化財の魅力・価値を周知し、その保存・活用を図り、大切な財産として次世代へ継承していく。						会計区分		一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度				
	○文化財保護審議会の開催 ○文化財保護補助金				○文化財保護審議会の開催 ○害虫等駆除委託料				○文化財保護審議会の開催 ○文化財保護補助金				
	決算額 (千円)		1,865		予算額 (千円)		2,666		計画額 (千円)		2,110		
	文化財保護審議会委員報酬		34		文化財保護審議会委員報酬		81		文化財保護審議会委員報酬		81		
指定文化財保護補助金		527		指定文化財保護補助金		660		指定文化財保護補助金		660			
その他		1,304		その他		1,925		営繕修繕料		200			
								その他		1,169			
事業費・財源		人件費(会計年度任用職員)		0		人件費(会計年度任用職員)		0		人件費(会計年度任用職員)		0	
		特定		0		一般		1,865		特定		0	
										特定		0	
										一般		2,666	
										特定		0	
										一般		2,110	

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	総合評価	C
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性									
成果	拡充		④		②		①		
	現状維持		③	✓	⑤				
	縮小		⑥						
	休廃止	⑦							
コスト		皆減		縮小		現状維持		拡大	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>重要文化財深澤家住宅でコウモリの生態調査を行ったところ、建物内への出入りが確認されたため、侵入防護ネットにより対策を行った。引き続き、今年度中に糞尿による汚損箇所の一部消毒等を実施する予定である。</li> <li>深澤家住宅の活用について、地元住民の団体による協力や活用方法の提案があった。文化財保護の観点から実施可能かどうかも含めて、現在調整・検討している段階。</li> <li>重要文化財小松家住宅について、内製で保存活用計画の作成を開始し、年度内に文化庁への提出を目標としている。</li> <li>伝建地区内で催されるイベントについて、インスタグラムでPRを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>深澤家住宅は、寄贈を受ける前から無人の状態であったため、コウモリが棲みつき建物内に糞尿の痕跡が確認された。このため、衛生上の問題から長時間部屋を使用するような活用は困難な状況にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>深澤家住宅の公開活用を図る前段階として、畳の取り替えや建物説明のための展示パネルの経費を要求する。インスタグラム等SNSへのアクセス数は飛躍的に増加しており、本市の文化財への関心が高まっているほか、深澤家住宅への地元住民の関心も高いことから、取り替え経費の一部をガバメントクラウドファンディングによって集めることに挑戦したい。</li> <li>小松家住宅については、保存活用計画作成後に、計画に基づいた修理および周辺整備を実施したい。(重要文化財等修理事業として立ち上げ、R9~11予定)</li> <li>県指定天然記念物小野神社社叢の樹木一部伐採・枝払いの経費について、所有者が今年度の県補助を要望したが、不採択となった。来年度も改めて県へ補助要望しているため、採択された場合は随伴として市も補助を実施したい。</li> </ul>

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>深澤家住宅については、本格的な公開活用の見通しが立たないことから、畳替えや説明展示用パネルの購入は見送る。併せて、公開活用までの具体的なスケジュールを検討すること。</li> </ul>	第2次評価	—
-------	--	-------	---

事務事業名	文化財管理事業	課名	文化財課
-------	---------	----	------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価) (千円)

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
文化財保護審議会委員報酬		81		81		81
指定文化財保護補助金		660		660		660
施設管理消耗品【新規】		100		100		100
営繕修繕料(深澤家住宅畳替え)【新規】		2,187	▲2,187	0		0
営繕修繕料(小松家、深澤家小破修繕)【新規】		200		200		200
備品購入費(深澤家住宅説明用展示パネル)【新規】		220	▲220	0		0
その他		1,069		1,069		1,069
				0		0
人件費(会計年度任用職員)		0		0		0
事業費合計		4,517	▲2,407	2,110	+0	2,110
財源内訳	国庫支出金 (名称)			0		0
	県支出金 (名称)			0		0
	地方債 (名称)			0		0
	その他 (名称)			0		0
	一般財源	4,517	▲2,407	2,110	+0	2,110

○評価指標

評価指標(単位)	文化財関係のSNS等の閲覧数(件)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		26,500	235,000	
実績値(事後評価)	-	182,280		
目標値		30,000	300,000	300,000
(事後評価) 指標実績値の要因分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝建協関係のアクセス数が予想以上に伸び、目標を大幅に上回った。</li> <li>・市文化財課HP 2,280アクセス(市HP全体の6%)</li> <li>・伝建協HP 60,000アクセス</li> <li>・伝建協インスタ 120,000アクセス</li> </ul>			
評価指標(単位)				
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				
(事後評価) 指標実績値の要因分析				

○事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市ホームページの文化財紹介のページについて、文化財個別の概説や写真を追加し、充実を図った。</li> <li>・全国伝統的建造物群保存地区協議会のInstagramアカウントを立ち上げ、フォトキャンペーンを開催し、全国の伝建地区からの投稿を募った。</li> <li>・重要文化財深澤家住宅内部の清掃を地元と協働で実施。建物概要についてのパネル作成など、公開環境を整え、10~12月の土・日限定で、事前予約制による公開を開始した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市ホームページのトップページから各種サービスにアクセスする母数が少ないことがわかった。</li> <li>・伝建協Instagramを立ち上げたことで、新しいインターフェイスにより、文化財としての重要伝統的建造物群保存地区を周知することができた。</li> <li>・フォトキャンペーン応募作品を伝建協のInstagramでリポストすることで、閲覧者からは「伝建地区へ行ってみたいと思った」「投稿を毎日楽しみにしている」など、好意的な意見をいただくことができた。</li> <li>・重要文化財深澤家住宅の公開については限定的な期間であったが、約30人の申込があり内部公開を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良井・木曾平沢のイベントPRをInstagramで行ったところ、1日で1,000アクセスがあった。Instagram等のSNSによる市有文化財の周知が有効であることから、今後もSNS等を活用し、市内文化財の魅力・価値の周知を図り、保存活用の機運醸成へとつなげていく必要がある。</li> <li>・重要文化財深澤家住宅について、公開活用に対する需要があることが分かった。継続的に公開活用を実施するにあたり、まずは、早急な害虫駆除と畳替えを行い、適正な公開環境を整えることが必要となっている。将来的には、必要な保存対策や活用方法についての方向性を示した保存活用計画を作成する必要がある。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	今福 大輔	連絡先(内線)	3134
最終評価者	文化財課長	氏名	古畑 比出夫	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	短歌館運営事業				担当課	文化財課				施策	3-5			
目的	対象	市民、市外からの来館者								新規/継続	継続			
	意図	短歌を学習する機会と場を提供する。								会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度					
	○館の管理運営 ○企画展、講座等の開催 ○樹木管理				○館の管理運営 ○企画展、講座等の開催 ○樹木管理				○館の管理運営 ○企画展、講座等の開催					
事業費・財源	決算額	(千円) 11,336		予算額	(千円) 9,883		計画額	(千円) 3,316						
	旅費	48		旅費(企画展展示資料借用・返却)	136		旅費	77						
	報償費	456		報償費	489		報償費	454						
	需用費	1,588		需用費	1,763		需用費	2,593						
	その他	2,091		その他	1,570		その他	192						
	人件費(会計年度任用職員)	7,153		人件費(会計年度任用職員)	5,925		人件費(会計年度任用職員)							
特定	329	一般	11,007	特定	318	一般	9,565	特定	315	一般	3,001			

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	B
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③	✓	⑤	
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<p>・短歌館内での開催事業として、今年度新たに「短歌愛好者のつどい」を全3回開催。5月の回に8名、7月の回に24名の参加があった。</p> <p>・競技かるたを切り口に、短歌文化の振興を図る活動として、「競技かるた初・中級教室」を開催し、小学生から高校生までの若い世代が短歌に触れる機会の創出を図っている。</p> <p>・夏休み期間中に、短歌館内施設の「いきいき学び庵」を広丘児童館として部屋提供する取り組みを実施した。その中で、かるた体験講座を行い、短歌の普及活動を行った。</p>	<p>・今年度の入館者数は8月時点で350人と、前年度上半期と比較して少なくなっている。</p> <p>・「かるた体験講座」では子どもたちが楽しそうに参加しているが、その参加者が「競技かるた初・中級教室」への参加に結びついていないため、子どもが楽しみながら学べるような工夫が必要である。</p>	<p>・塩尻短歌館歌碑公園周知のため、案内パンフレットを新規に作成する印刷製本費を要求する。</p> <p>・短歌館の非常誘導灯は蛍光灯で、蛍光灯は2027年末で製造禁止となり、今後仕入れることが困難になるため、旧型の8台をLEDタイプに交換する必要がある。</p> <p>・広丘ゆかりの歌人が揮毫(きごう)した貴重な遺墨を購入し、塩尻市の文化遺産として保存するため、備品購入費を要求する。</p> <p>・今年度新たに始めた「短歌愛好者のつどい」や「競技かるた初・中級教室」は、短歌文化の周知・底辺拡大のための活動として、来年度も継続的に行っていきたい。また、短歌フォーラム事業等も含め、短歌文化発信のための事業の効果的な実施について、社会教育スポーツ課、公民館などの関係機関や地域と連携しながら検討したい。</p> <p>・本市にもゆかりのある、近代を代表する歌人島木赤彦について、来年度生誕150年の節目の年となるため、記念企画展を行いたい。</p>

第1次評価	<p>・全国短歌フォーラム事業との連携を模索し、短歌文化の発信に寄与する効果的な事業となるよう検討すること。</p> <p>・歌碑公園案内パンフレットの印刷、誘導灯のLED化、備品購入はR8年度の予算計上を見送る。</p>	第2次評価	—
-------	---	-------	---

事務事業名	短歌館運営事業	課名	文化財課
-------	---------	----	------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価) (千円)

項目	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後	
旅費(短歌大学講師等)	77		77		77	
報償費(短歌大学講師等)	454		454		454	
印刷製本費(入館券等通常分)	202		202		202	
印刷製本費(パンフレット分)【新規】	115	▲115	0		0	
営繕修繕料(通常分)	200		200		200	
営繕修繕料(誘導灯取替)【新規】	716	▲716	0		0	
備品購入費【新規】	156	▲156	0		0	
その他	2,386	▲3	2,383		2,383	
人件費(会計年度任用職員)			0		0	
<b>事業費合計</b>	<b>4,306</b>	<b>▲990</b>	<b>3,316</b>	<b>+0</b>	<b>3,316</b>	
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0	0	
	県支出金	(名称)		0	0	
	地方債	(名称)		0	0	
	その他	入館料・使用料・講座受講料ほか	315	315		315
	一般財源		3,991	▲990	3,001	+0

○評価指標

評価指標(単位)	短歌館入館者数(人)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		900	340	
実績値(事後評価)	1,549	1,587		
目標値		1,500	1,500	1,500
(事後評価)指標実績値の要因分析	・来館者の層が固定化されてきており、新たな客層を取り込めていないほか、企画展等の事業を行わない時期や平日入館者が少ない状況がある。			
評価指標(単位)				
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				
(事後評価)指標実績値の要因分析				

○事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展2回、書道展1回、短歌大学3回、百人一首大会、春待ちコンサートなどの事業を実施した。また、春の企画展中に特別企画として短歌交流会を3回行った。</li> <li>市内小中学校・公民館等へ出向いての短歌づくり研修の実施や、短歌館で行う短歌研修の受け入れを行った。また、短歌フォーラム関連事業として「短歌の里みてある記」を開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>春の企画展では136人、秋の企画展では921人、書道展では108人の方が短歌館を訪れた。特別企画の短歌交流会では、44人の方に参加いただき、短歌をたしなむ場として短歌館を活用できた。</li> <li>短歌大学では申し込み多数の中から参加者抽選を行い、80人/回の参加となる短歌館の人気のイベントとなっている。</li> <li>短歌館職員が出向く事業の実施によって、入館者や参加者を待つだけでなく、こちらから積極的に短歌文化を広めていききっかけづくりができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短歌大学及び春待ちコンサートをえんてらすで開催することで、短歌館活動や短歌文化をより多くの方に知ってもらえた一方、短歌館内での開催事業が減少しているため、短歌館自体に足を運んでもらえる工夫が必要。</li> <li>毎年様々なテーマで企画展を行っているが、入館者数、入館料収入が、いずれも市内博物館関係施設で最低規模となっており、なかなか結果に結びつかない。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	文化財課	文化財係	職名	主事	氏名	中山 春菜	連絡先(内線)	3138
最終評価者	文化財課長	氏名	古畑 比出夫	担当係長		文化財係	氏名	塩原 真樹	

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	自然博物館運営事業				担当課	文化財課			施策	3-5		
目的	対象	市民、市外からの来館者						新規/継続	継続			
	意図	自然を学ぶ学習の機会と場を提供する。						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営				○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営				○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営			
	決算額	(千円) 10,783		予算額	(千円) 13,480		計画額	(千円) 4,129				
	印刷製本費	233		印刷製本費	478		印刷製本費	479				
標本同定作業等委託料	1,400		標本同定作業等委託料	1,350		標本同定作業等委託料	1,000					
企画展示等委託料	350		企画展示等委託料	350		企画展示等委託料	350					
その他	1,158		電力使用料	528		電力使用料	1,200					
			その他	1,075		その他	1,100					
人件費(会計年度任用職員)	7,642		人件費(会計年度任用職員)	9,699		人件費(会計年度任用職員)						
特定	1,265	一般	9,518	特定	950	一般	12,530	特定	1,180	一般	2,949	

○事中評価

評価視点	妥当性	2	やや低い	総合評価	C
	有効性	2	やや低い		
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性							
成果	拡充		④		②	①	✓
	現状維持		③		⑤		
	縮小		⑥				
	休廃止	⑦					
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大			

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>開館30周年を記念して、夏休み期間(7月18日~8月31日)無料開放を実施したところ、約14,000人が自然博物館を訪れた。無料開放期間に合わせて、「夏休み昆虫展」を開催し、小坂田公園利用者に向けて自然博物館の存在をアピールすることができた。</li> <li>小坂田公園の来園者に興味を持ってもらえるように、小坂田公園内にある蝶や昆虫に関する小坂田公園自然観察マップを作成した。</li> <li>従来は手書きの看板しかなかったが、入館料の表示看板を作成・設置したことで、入館しやすい施設になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小坂田公園リニューアルの影響で小坂田公園の来園者が増え、多くの方に塩尻市の自然について知ってもらう機会が提供できているが、自然博物館を目的として訪れる人は昨年から引き続き少ない状況にある。訪れる人を飽かさず、リピーターを増やせるような工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>R7年度より文化財課で予算計上した電力使用料について、当初予算の金額では大幅に足りないことが判明したため、実績に基づいた金額を予算要求する。</li> <li>使用中の電子複写機は10年以上リースをしており、故障した場合、部品等がなく修理ができない可能性があるため、新たなリース契約のための予算を要求する。</li> <li>使用料、手数料見直しに伴い、入館料の値上げを行う方針である。これにより、パンフレットや入館券等の刷り直すための印刷製本費を予算要求する。</li> <li>R2年度から始めた、収蔵標本のサイエンスミュージアムネットへの登録は、現在までに約3分の1が完了したが、収蔵標本が65,000点以上あることから、今後も継続的な取り組みが必要である。</li> <li>自然博物館では現金のみの対応となっているが、小坂田公園内ではキャッシュレス化が進んでいるため、キャッシュレス決済端末の導入を検討したい。</li> </ul>

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>標本同定作業については、規模を縮小とする。実施を継続することが妥当であるのか必要性を検討すること。</li> <li>電子複写機は、更新ではなく再リースで対応すること。</li> </ul>	第2次評価	—
-------	--	-------	---

事務事業名	自然博物館運営事業	課名	文化財課
-------	-----------	----	------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価) (千円)

項目	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後	
印刷製本費(館報、パンフレット、入館券)	479		479		479	
標本同定作業等委託料	1,350	▲350	1,000		1,000	
企画展示等委託料	350		350		350	
電力使用料【特殊】	1,200		1,200		1,200	
電子複写機使用料【機器更新】	80	▲80	0		0	
その他	1,100		1,100		1,100	
			0		0	
			0		0	
人件費(会計年度任用職員)			0		0	
<b>事業費合計</b>	<b>4,559</b>	<b>▲430</b>	<b>4,129</b>	<b>+0</b>	<b>4,129</b>	
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0	0	
	県支出金	(名称)		0	0	
	地方債	(名称)		0	0	
	その他	入館料・標本データ登録料	1,180	1,180		1,180
	一般財源		3,379	▲430	2,949	+0

○ 評価指標

評価指標(単位)	自然博物館入館者数(人)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		10,000	19,893	
実績値(事後評価)	13,909	22,051		
目標値		14,000	25,000	25,000
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・小坂田公園リニューアルに伴い、多くの方が公園を訪れており、その相乗効果で自然博物館の利用者も大幅に増えたと考えられる。			
評価指標(単位)				
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				
(事後評価) 指標実績値の要因分析				

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別企画展4回、自然科学講座3回、自然観察会4回を開催するなど事業を実施し、自然博物館館報の発行を行った。</li> <li>・継続事業として、収蔵標本データベース化及びサイエンスミュージアムネットへ昆虫資料2,550件の登録を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小坂田公園リニューアルによる効果により、入館者が大幅に増加しており、塩尻の自然や動植物・昆虫・キノコについて多くの方に知ってもらえた。</li> <li>・サイエンスミュージアムネットへの登録は令和6年度末時点で、累計23,563件が登録済みとなった。全体の1/3程度の登録が完了しており、資料の情報を全世界の研究者等に提供できる環境が構築されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収蔵標本データベース化及びサイエンスミュージアムネットへの登録は、収蔵標本が65,000点以上あることから、今後も継続的な取組が必要である。</li> <li>・小坂田公園リニューアル効果による入館者だけでなく、自然博物館自体を目標として来る方を増やすべく、新たに自然に興味・関心を持つ人を増やす必要がある。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	文化財課	文化財係	職名	主事	氏名	中山 春菜	連絡先(内線)	3138
最終評価者	文化財課長	氏名	古畑 比出夫	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

令和7年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名	重伝建整備事業				担当課	文化財課			施策	3-5		
目的	対象	重伝建地区内で建造物等の工事を行う者						新規/継続	継続			
	意図	重伝建地区内の適正な整備を行い、歴史的な町並みの保存を図り、将来にわたって継承していく。						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群保存地区修理修景				○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群保存地区修理修景				○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群保存地区修理修景			
事業費・財源	決算額	(千円)	25,450	予算額	(千円)	18,744	計画額	(千円)	25,224			
	補助金		25,319	補助金		18,576	補助金		25,000			
	その他		131	その他		168	その他		224			
	特定	17,226	一般	8,224	特定	12,699	一般	6,045	特定	17,093	一般	8,131

○事中評価

評価視点	有効性	2	やや低い	総合評価	C
	効率性	4	高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	✓
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③		⑤	✓
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
		皆減	縮小	現状維持	拡大	
コスト						

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度の修理修景事業について、木曾平沢で4件の修理事業を予定する。</li> <li>令和8年度の修理修景事業者を取りまとめ、国庫補助申請に必要な資料作成を依頼している。</li> <li>両地区で建物の改修等に関する町並み相談会を開催し、令和9年度以降に修理修景事業を希望する事業者を募った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物の新築・改築・増築・改修に係る許可基準に明示されていない事項や伝建制度の規制対象外の内容について、これまで住民による取り決めや共通認識の中で守ってきた側面があるが、移住や出店等による地区外からの流入者が増加する中、周知方法の検討や理解を浸透させるための取り組みが求められてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>修理修景事業に対する補助上限額が30年以上変更されていない状況で、物価上昇や人件費・資材高騰といった現状に即しているとは言えないため、R9年度より上限額を引き上げ、積極的な保存活用の推進を図りたい。</li> <li>現在、奈良井地区において、伝建地区内での建造物等の工事にあたり、伝建制度の許可基準で示されていない詳細や、伝建制度では規制できない部分の地区の取り決めごとを記載したガイドラインを地元と共同で作成しており、来年度その印刷製本費を要求する。</li> <li>R8年度に木曾平沢選定20年、R10年度に奈良井選定50年の節目を迎えるため、記念事業の開催を予定している。特に、奈良井選定50年に向けては、伝建選定時から現在までの町並みの変遷や現状把握のための見直し調査の実施を、R9～10年度にかけて外部調査機関に委託する予定である。</li> </ul>

第1次査定	・計画のとおり。	第2次査定	—
-------	----------	-------	---

○ 実施計画補正要求

(千円)

年度	概要		項目(起債対象に※)		計画額	補正要求額	補正後額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和8年度	○奈良井・木曾平沢伝統的建造物群保存地区修理修景		補助金		25,000		25,000		25,000		25,000
			旅費・消耗品費		224		224		224		224
							0		0		0
							0		0		0
							0		0		0
							0		0		0
			事業費合計		25,224	+0	25,224	0	25,224	0	25,224
	財源内訳	国庫支出金	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金	65%	16,339		16,339		16,339		16,339
		県支出金	文化財保護事業補助金	3%	754		754		754		754
		地方債1	(地方債名)				0		0		0
地方債2		(地方債名)				0		0		0	
地方債3		(地方債名)				0		0		0	
その他						0		0		0	
一般財源					8,131	+0	8,131	0	8,131	0	8,131

○事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良井修理2件・修景1件、木曾平沢修理2件の事業を実施した。</li> <li>・令和7年度分は、木曾平沢4件の事業実施箇所について、令和6年9月の伝建審議会の審議を経て、補助金の予算化を図るとともに、令和7年1月に文化庁へ国庫補助金の交付申請した。</li> <li>・令和8年度以降分について、地元住民組織との共催で相談会を開催し、事業実施希望者の取りまとめを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の実施により、地区内の建造物が適切に保存され、町並み全体の歴史的風致が保たれている。これにより住民の文化財保護意識の向上や地域への愛着・誇りの醸成が図られるほか、観光資源としても活用され、地域の振興に寄与している。</li> <li>・相談会の開催により、数年先までの事業予定を把握することができ、計画的な事業実施ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両地区の修理修景事業実施希望者は増えてきているが、従来の予算規模では対応できず、やむを得ず先の年度以降に事業実施を見送ってもらう事例が出てきている。</li> <li>・資材・人件費等の高騰により、修理修景事業に係る工事費は上昇している一方、補助上限額が少ないため、事業者負担が大きくなる傾向にある。このため、事業実施を躊躇したり、実施したとしても十分な修理修景が行えないケースも出てきている。</li> </ul>

○評価指標

評価指標(単位)	修理修景事業実施数		
年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)	3	0	
実績値(事後評価)	5		
目標値	5	4	4
(事後評価)指標実績値の要因分析	・計画した事業全件について、年度内に事業完了した。		

作成担当者	交流文化部	文化財課	文化財係	職名	主任	氏名	今福 大輔	連絡先(内線)	3134
最終評価者	文化財課長	氏名	古畑 比出夫	担当係長		文化財係長	氏名	塩原 真樹	

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	檜川地区文化施設運営事業			担当課	文化財課			施策	3-5		
目的	対象	市民、市外からの来館者						新規/継続	継続		
	意図	木曾漆器や宿場町の歴史文化等を学習する機会と場を提供する。						会計区分	一般		
年度別事業内容(手段)	令和6年度			令和7年度			令和8年度				
	○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営			○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営			○企画展、学習講座等の開催 ○資料の整理 ○館の管理運営				
事業費・財源	決算額	(千円)	15,084	予算額	(千円)	17,429	計画額	(千円)	3,025		
	光熱水費		1,187	光熱水費		1,310	光熱水費		1,345		
	印刷製本費		388	印刷製本費		542	印刷製本費		542		
	営繕修繕料		263	営繕修繕料		300	営繕修繕料		327		
	空調設備設置工事		247	費川関所松木剪定委託料		121	園庭整備委託料		121		
	その他		1,674	その他		974	その他		690		
	人件費(会計年度任用職員)		11,325	人件費(会計年度任用職員)		14,182	人件費(会計年度任用職員)				
	特定	3,509	一般	11,575	特定	2,956	一般	14,473	特定	3,025	一般

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	B
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③	✓	⑤	
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポロポロになっていた費川関所のまん幕を購入し、新しいものを取り付けた。</li> <li>・中村邸にキャッシュレス決済端末を導入したことで、毎月来訪者の約2割がキャッシュレス決済を利用しており、利便性の向上が図られている。</li> <li>・檜川小中学校と木曾漆器館のHPIにリンクを貼り、相互的な情報発信を目指している。</li> <li>・木曾や檜川地域の歴史文化普及のため、例年通り漆器祭・宿場祭期間中に檜川地区文化施設3館の無料開放を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中村邸の入館者は例年通りだが、それ以外の施設の入館者数が伸び悩んできており、特に木曾漆器館については、今後の在り方も含めて、関係部局と検討していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用料、手数料見直しに伴い、入館料の値上げを行う方針である。これにより、パンフレットや入館券等の刷り直すための印刷製本費を予算要求する。</li> </ul>

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木曾漆器館と費川関所については、開館時間の短縮を検討し職員配置等を見直すこと。</li> <li>・木曾漆器館については、改修費用を要しない方法で機能移転を検討すること。</li> <li>・印刷製本費は、前年度同額の予算額とする。</li> </ul>	第2次評価	—
-------	---	-------	---

事務事業名	檜川地区文化施設運営事業	課名	文化財課
-------	--------------	----	------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価) (千円)

項目	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後	
檜川地区文化施設協議会委員報酬・費用弁償	53		53		53	
燃料費	175		175		175	
電力使用料	960		960		960	
上下水道使用料	175		175		175	
印刷製本費(入館券、パンフレット)	772	▲230	542		542	
営繕修繕料	327		327		327	
園庭整備委託料	121		121		121	
その他	672		672		672	
人件費(会計年度任用職員)			0		0	
<b>事業費合計</b>	<b>3,255</b>	<b>▲230</b>	<b>3,025</b>	<b>+0</b>	<b>3,025</b>	
財源内訳	国庫支出金 (名称)		0		0	
	県支出金 (名称)		0		0	
	地方債 (名称)		0		0	
	その他 入館料	3,255	▲230	3,025		3,025
	一般財源	0	+0	0	+0	0

○ 評価指標

評価指標(単位)	檜川地区文化施設入館者数(3施設計)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		8,800	6,656	
実績値(事後評価)	15,265	16,536		
目標値		15,000	15,000	15,000
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・インバウンド需要が高まったことで、奈良井を訪れる人が増加していることが施設の入館者数に反映されている。			
評価指標(単位)				
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				
(事後評価) 指標実績値の要因分析				

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・木曾漆器館の1階展示コーナーの常設展示の展示替えを行ったほか、展示・収蔵資料である、国指定重要有形民俗文化財の「木曾塗の製作用具及び製品」の台帳電子データ化を引き続き実施した。また、漆塗り体験講座や塗箸漆絵付け体験講座などの事業を実施した。</li> <li>・中村邸においては、展示資料の題目やキャプションを作成し、見やすい展示に改めたほか、12月から入館料のキャッシュレス決済機器を導入した。</li> <li>・豊川関所のまん幕購入および松枝選定の経費について、令和7年度の予算化ができた。</li> <li>・3施設のトイレの一部をウォシュレット化した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者数は、インバウンド客の増加もあり、いずれの施設も昨年度より増加した。市内外多くの方に木曾漆器や宿場町の歴史文化等について知っていただくことができた。また、漆器館での各種体験講座を通じて、檜川地域の伝統工芸の魅力に触れる機会を提供し、観光客や修学旅行者に対し、木曾漆器の思い出作りに寄与できた。</li> <li>・国指定重要有形民俗文化財の「木曾塗の製作用具及び製品」の台帳電子データ化が8割程度完了した。</li> <li>・中村邸へのキャッシュレス決済機器の導入したところ、毎月約2割のキャッシュレス利用があり、観光客がスムーズに入館できるよう利便性の向上が図られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年以上ホームページの更新が途絶えているため、常設展示の展示替えを行った際や塗箸絵付け体験講座等、各施設の活動について、ホームページやプレスリリース等の情報発信を積極的に行い、檜川地区の歴史文化の周知に力を入れていく必要がある。</li> <li>・各施設が持つ特徴や価値について、より多くの方に周知するため、各施設単独ではなく、檜川小中学校をはじめとする、地域関係団体、関係施設等と連携・協力しての事業実施を検討していくことが求められる。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	文化財課	文化財係	職名	主事	氏名	中山 春菜	連絡先(内線)	3138
最終評価者	文化財課長	氏名	古畑 比出夫	担当係長	文化財係長	氏名	塩原 真樹		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	平出博物館運営事業				担当課	平出博物館			施策	3-5		
目的	対象	市民、市外からの来館者						新規/継続	継続			
	意図	地域遺産を扱う身近な博物館として、学びの場を提供する。						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持管理・運営 ○デジタル・アーカイブ化				○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持管理・運営				○企画展の開催 ○講座・講演会の開催 ○施設の維持管理・運営			
	決算額	(千円)	13,181	予算額	(千円)	15,757	計画額	(千円)	11,445			
	光熱水費		4,207	光熱水費		4,417	水光熱費		4,417			
施設管理等委託料		1,573	施設管理等委託料		1,318	施設管理等委託料		1,420				
デジタル・アーカイブ化業務委託料		0	その他		6,103	その他		5,608				
その他		4,294										
人件費(会計年度任用職員)		3,107	人件費(会計年度任用職員)		3,919	人件費(会計年度任用職員)						
特定	878	一般	12,303	特定	707	一般	15,050	特定	707	一般	10,738	

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	総合評価	B
	有効性	2	やや低い		
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④	✓	②	①
	現状維持		③		⑤	
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
・補助金等を活用した資料のデジタルアーカイブ化については、引き続き実施を検討したい。	・市内小学校の庁用バスを活用した見学会については、各校との連携をより密にしながら、定着するまでさらに継続的に息長く取り組む必要がある。 ・学芸員有資格職員の異動により、平出博物館所属の学芸員が史上初めて1名になってしまった。これまで分担してきた企画展示や、講座・講演会、館内における展示解説の企画運営、研究機関でもある博物館における照会対応に支障をきたしている。 ・施設設備の老朽化が進行している。学習室のエアコン2機のうち1機は既に送風機能も失われており、もう1機も運転はするものの運転音が大きくなっている。	・平出遺跡とその出土遺物を収蔵する平出博物館は、長野県を代表する良質な文化資産であることから、市内児童生徒の貴重な学習体験できる機会が失われないように、学博連携で見学の機会確保に努めたい。 ・これまであまり平出博物館に足を運んでいただけなかった方を呼び込む方策として、ロビー等における美術展示に試験的に取り組む。

第1次評価	・提案のとおり。	第2次評価	—
-------	----------	-------	---

事務事業名	平出博物館運営事業	課名	平出博物館
-------	-----------	----	-------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価) (千円)

項目	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後	
光熱水費	4,417		4,417		4,417	
施設管理等委託料	1,420		1,420		1,420	
印刷製本費	1,245		1,245		1,245	
自動車等借上料	447		447		447	
その他	3,916		3,916		3,916	
			0		0	
			0		0	
			0		0	
人件費(会計年度任用職員)			0		0	
<b>事業費合計</b>	<b>11,445</b>	<b>+0</b>	<b>11,445</b>	<b>+0</b>	<b>11,445</b>	
財源内訳	国庫支出金 (名称)		0		0	
	県支出金 (名称)		0		0	
	地方債 (名称)		0		0	
	その他 入館料等	707		707		707
	一般財源	10,738	+0	10,738	+0	10,738

○ 評価指標

評価指標(単位)	入館者数(人)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		2,306	2,873	
実績値(事後評価)	4,994	4,646		
目標値		5,100	5,200	5,300
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・質の高い収蔵品はあるものの、それが認知に結びついていない。来館者の満足度を向上しリピートを促すとともに、より認知度向上が必要とされる。			
評価指標(単位)				
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				
(事後評価) 指標実績値の要因分析				

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なテーマを設定した企画展を4回、講座・講演会を4講座開催し、歴史に触れる機会を設けた。</li> <li>部分的に常設展示室の展示替えを行い、新たな展示資料の公開に努めた。</li> <li>豊富な出土遺物の実物展示を積極的にアピールし、通常の博物館ではあまり行えていなかった、実際に土器に触れることのできる展示コーナーを設け、歴史を身近に感じてもらえる工夫をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展には延べ2,199人、講座・講演会には延べ207人の来館があり、地域資料を活用した学びの機会を提供することができた。</li> <li>常設展示室の展示内容を更新することで、リピーターにも対応することができた。</li> <li>縄文、弥生、平安時代の本物の土器を実際に触ることができた来館者から、「初めて土器に触りました」、「本物の土器を持つことができ感激しました」などの感想をいただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展や講座等への参加者は多いものの、通常時の来館者がコロナ禍以前の水準まで戻っていないため、来場者が増えている遺跡公園から来館者を呼び込む方策を検討する必要がある。</li> <li>既存のバリューゾーンとしての埋蔵文化財愛好者に加えて、これまであまりこの分野に関心のなかった層に更に訴えかけていくことが求められる。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	平出博物館	職名	主査	氏名	石井 健郎	連絡先(内線)	5591
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	氏名			

令和7年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名	新平出博物館整備事業				担当課	平出博物館				施策	3-5	
目的	対象	市民、市外からの来館者						新規/継続	継続			
	意図	にぎわいの場となることで、新たなコミュニティが形成され地域が活性化する。						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○発掘調査				○地形測量				○ランドデザイン策定			
事業費・財源	決算額	(千円) 2,935		予算額	(千円) 4,543		計画額	(千円) 0				
	発掘作業員報酬等	2,498		地形測量委託料	4,543		平出地区ランドデザイン策定事業	0				
	その他	437										
	特定	1,000	一般	1,935	特定	0	一般	4,543	特定	0	一般	0

○事中評価

評価視点	有効性	3	やや高い	総合評価	C
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③		⑤	✓
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
		皆減	縮小	現状維持	拡大	
コスト						

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
・事業推進のための有効な財源を見いだせていないため、手戻りのない業務のみを実施している。	・新平出博物館整備事業に資するべく、令和6年度において、歴まち計画の認定を国から受けたが、財政的な見通しが立たないことから、当該事業を計画に記載することができずにいる。 ・当該事業用地は民地であり、土地所有者においても、計画の具体化への行方が懸念され始めている。	・歴まち認定都市のみに認められる、新設事業等を活用した地域ランドデザイン策定を検討する。その方策の一つとして民間企業との業務提携の枠組みを活用する(歴史資源の活用)。歴まち都市の相互の結びつきや関係省庁からの情報ネットワークなどを活かして情報収集を進める。

第1次査定	・平出地区ランドデザイン策定経費については、令和8年度当初予算への計上は見送りとする。	第2次査定	—
-------	---	-------	---

○ 実施計画補正要求

(千円)

年度	概要	項目(起債対象に※)	計画額	補正要求額	補正後額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後	
令和8年度	○グランドデザイン策定	平出地区グランドデザイン策定		+10,000	10,000	▲10,000	0		0	
					0		0		0	
						0		0		0
						0		0		0
						0		0		0
						0		0		0
		事業費合計		0	+10,000	10,000	▲10,000	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	(未定)		+10,000	10,000	▲10,000	0		0
		県支出金	(補助金名)			0		0		0
		地方債1	(地方債名)			0		0		0
地方債2		(地方債名)			0		0		0	
地方債3		(地方債名)			0		0		0	
その他		(名称)				0		0		0
	一般財源		0	+0	0	0	0	0	0	

○事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的風致維持向上計画策定に向け、歴史的風致維持向上協議会を1回開催した。</li> <li>・新博物館建設予定地で、埋蔵文化財の確認調査を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的風致維持向上計画が国土交通省等により認定され、博物館整備の財源の確保に向け補助率の上乗せをすることができるようになった。</li> <li>・新博物館建設予定用地には、埋蔵文化財が所在しないことが確認され、建設に向けて支障がないことが明らかになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新平出博物館建設事業については、建設における最終段階までの確実な財源が見込めないため、起債面等でも有利となる歴史的風致維持向上計画に記載ができていない。</li> <li>・一般財源を減らすことができる有益な財源確保に向け、国の動向を注視する必要はある。</li> </ul>

○評価指標

評価指標(単位)	新平出博物館建設までの総事業費の進捗率(%)		
年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)	0.0001	0.0001	
実績値(事後評価)	0.0001		
目標値	0.0001	0.0001	0.0001
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・事業の進み方はゆっくりであるが、できることを着実にこなしている状況である。		

作成担当者	交流文化部	平出博物館	職名	主査	氏名	石井 健郎	連絡先(内線)	5591
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	氏名			

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	平出遺跡公園事業(ソフト事業)				担当課	平出博物館			施策	3-5	
目的	対象	市民、市外からの来訪者						新規/継続	継続		
	意図	5,000年人が住み続けている歴史を伝えるとともに、非日常的な憩いの場とする。						会計区分	一般		
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度			令和7年度			令和8年度				
	○遺跡ガイダンス・体験型学習の開催 ○平出遺跡公園の維持管理 ○ひらいで遺跡まつりの開催			○遺跡ガイダンス・体験型学習の開催 ○平出遺跡公園の維持管理 ○ひらいで遺跡まつりの開催			○遺跡ガイダンス・体験型学習の開催 ○平出遺跡公園の維持管理 ○ひらいで遺跡まつりの開催				
事業費・財源	決算額 (千円)	9,711	予算額 (千円)	11,643	計画額 (千円)	4,495					
	遺跡まつり実行委員会負担金	938	遺跡まつり実行委員会負担金	950	遺跡まつり実行委員会負担金	950					
	光熱水費	1,238	光熱水費	1,305	光熱水費	1,305					
	その他	1,897	LED照明リース料(4ヶ月分)	59	LED照明リース料(12ヶ月分)	177					
			その他	2,921	その他	2,063					
	人件費(会計年度任用職員)	5,638	人件費(会計年度任用職員)	6,408	人件費(会計年度任用職員)						
特定	318	一般	9,393	特定	300	一般	11,343	特定	300	一般	4,195

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	総合評価	B
	有効性	3	やや高い		
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	✓
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③	✓	⑤	
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
・観光業が活性化し、都市圏発着のバスツアーの目的地に組み込まれるようになってきている。遺跡公園滞在時の満足度を向上させるため、周辺環境整備の徹底とホスピタリティを持った対応に努めている。	・もとよりイベント時には、ボランティア団体を抜きにして当該事業は成り立たないが、一昨年度の正規職員の減員がその状況に拍車をかけている。ボランティア団体の構成員自体も高齢化しており、適当な世代交代が求められる。	・遺跡公園の認知度が向上し、イベント等での利活用が進んできている。今後は、これらのイベント関係者に、より遺跡公園に主体的な関与を促すようなコミュニケーションを図りたい。

第1次評価	・印刷製本費については、前年度同額の予算額とする。	第2次評価	—
-------	---------------------------	-------	---

事務事業名	平出遺跡公園事業(ソフト事業)	課名	平出博物館
-------	-----------------	----	-------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価) (千円)

項目	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後	
遺跡まつり実行委員会負担金	950		950		950	
光熱水費	1,305		1,305		1,305	
LED照明リース料	177		177		177	
施設管理委託料	393		393		393	
印刷製本費	219	▲90	129		129	
その他	1,541		1,541		1,541	
			0		0	
			0		0	
人件費(会計年度任用職員)			0		0	
<b>事業費合計</b>	<b>4,585</b>	<b>▲90</b>	<b>4,495</b>	<b>+0</b>	<b>4,495</b>	
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0	0	
	県支出金	(名称)		0	0	
	地方債	(名称)		0	0	
	その他	体験学習参加費	300	300		300
	一般財源		4,285	▲90	4,195	+0

○ 評価指標

評価指標(単位)	来園者数(人)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		30,605	27,553	
実績値(事後評価)	43,636	48,674		
目標値		38,000	39,000	40,000
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・これから先の平出遺跡公園周辺のあり方を考えるうえで、より広くより多くの人に平出遺跡そのものをまず知って、来て、体験してもらうことを優先課題として事業展開していることが成果として現れた。			
評価指標(単位)				
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				
(事後評価) 指標実績値の要因分析				

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>平出遺跡公園の維持管理を行った。</li> <li>体験型学習の機会提供として、「火起こし」「勾玉づくり」など古代体験プログラムを実施した。</li> <li>第21回「ひらいで遺跡まつり」を開催し、遺跡公園の認知度向上に努めた。</li> <li>来場者が減少する冬季にもイベントを開催するべく、「SHIOJIRI NIGHT MUSEUM in 平出遺跡」を開催した。</li> <li>庁内の他部課や民間事業者による公園利用に積極的に対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺跡公園内の適切な除草作業により、快適な公園環境を維持することができた。</li> <li>「ひらいで遺跡まつり」は、悪天候により来場者が例年よりも少なかったが、約2,300人も来場者があった。</li> <li>「SHIOJIRI NIGHT MUSEUM in 平出遺跡」では、市内全保育園・幼稚園の年長児の絵を飾った灯笼をメインにしたライトアップを行い、約1,800人の来場者が幻想的な遺跡公園を満喫した。</li> <li>遺跡公園を活用したイベントとして「塩尻ワイナリーフェスティバル」、「信州キッチンカーフェス」、「LOCAL NIGHT MUSEUM in 平出遺跡」を開催し、多くの方が訪れて公園の利活用が図られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平出遺跡公園を活用した数多くのイベントが開催され、多くの来場者が訪れることは望ましいことであるが、遺跡公園周辺に専用の駐車場がほとんどないため、イベント開催時には周辺で交通渋滞が発生するなど、円滑な交通の確保に向けた対策が必要となる。</li> <li>遺跡公園ガイダンス棟で実施している古代体験プログラムの材料代が価格高騰のため、体験料の見直し又は体験の中止を検討する必要がある。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	平出博物館	職名	主査	氏名	石井 健郎	連絡先(内線)	5591
最終評価者	平出博物館館長	氏名	小松 学	担当係長	氏名			

令和7年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名	平出遺跡公園事業(ハード事業)				担当課	平出博物館				施策	3-5	
目的	対象	市民、市外からの来訪者						新規/継続	継続			
	意図	5,000年人が住み続けている歴史を伝えるとともに、非日常的な憩いの場とする。						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○復元住居改修工事 ○復元住居茅葺屋根改修工事				○復元住居改修工事				○復元住居改修工事			
事業費・財源	決算額 (千円)	0	予算額 (千円)	8,732	計画額 (千円)	15,158						
	復元住居改修工事	0	復元住居改修工事	8,732	復元住居改修工事	15,158						
	特定	0	一般	0	特定	7,800	一般	932	特定	13,600	一般	1,558

○事中評価

評価視点	有効性	4	高い	総合評価	B
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③		⑤	✓
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
		皆減	縮小	現状維持	拡大	
コスト						

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
・当初予算を実勢により基づいたものとするともに、当該年度中の工事実施に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復元住居改修工事については、改修工事自体を「学び」の機会としたいため、茅葺体験などのワークショップを併せて実施することを想定し、天候が安定する秋の実施を検討する。</li> <li>・屋根葺き材である「茅」については、生育と刈り取りの自然サイクルがあるため、工事の発注に際しては茅の調達状況等に留意する必要がある。</li> <li>・遺跡公園内の防犯目的の監視カメラシステムは、設置から15年経過し機器類全体の老朽化が進行している。頻発するカメラなどの個別的な故障に対しては対処療法的に対応しているが、システム全体の更新の検討をする段階にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候不順や、社会的な需要増等による変動状況を見極めながら、計画的な工事実施に努める。</li> <li>・遺跡公園内の復元家屋の改修についてより精度を高めるため、全体的な老朽化等具合を定量化するような取り組みを始めたい。</li> <li>・老朽化が進行している監視カメラシステム全体の入れ替えを行う。</li> </ul>
第1次査定	・監視カメラシステムの改修工事については、現在の警備委託契約が令和8年度に満了となることから、実施を見送りとする。次期契約内容の見直しに合わせて、その必要性を再検討すること。	第2次査定

○ 実施計画補正要求

(千円)

年度	概要		項目(起債対象に※)		計画額	補正要求額	補正後額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
令和8年度	○復元住居改修工事 ○監視カメラシステム改修工事		大規模改修工事(62号)	※	15,158		15,158		15,158		15,158
			監視カメラシステム改修工事			+3,300	3,300	▲3,300	0	0	
							0		0	0	
							0		0	0	
							0		0	0	
			事業費合計		15,158	+3,300	18,458	▲3,300	15,158	0	15,158
	財源内訳	国庫支出金	(補助金名)				0		0		0
		県支出金	(補助金名)				0		0		0
		地方債1	地域活性化事業債	90%	13,600		13,600		13,600		13,600
		地方債2	(地方債名)				0		0		0
地方債3		(地方債名)				0		0		0	
その他		(名称)				0		0		0	
一般財源					1,558	+3,300	4,858	▲3,300	1,558	0	1,558

○事後評価

取組内容	結果・成果	課題
・老朽化した縄文のムラにある2棟の復元住居の改修工事を実施した。	・復元住居の改修工事を発注したが、材料となる茅の確保が困難となったため、予算繰越により工期を延長して改修工事を実施した。	・資材の大半が自然素材であり、材料の確保はその時々々の気候等諸条件に左右されることが多いため、工期等が大幅に変動することを見越す必要があり、早期の発注が必要となる。

○評価指標

評価指標(単位)	復元建物修復数(棟)		
年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)	0		
実績値(事後評価)	0		
目標値	2	1	1
(事後評価)指標実績値の要因分析	・復元に使用する原材料不足により、年度内の事業完了をすることができなかったため、翌年度に繰越明許した。		

作成担当者	交流文化部	平出博物館	職名	主査	氏名	石井 健郎	連絡先(内線)	5591
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	氏名			

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	埋蔵文化財保護事業				担当課	平出博物館			施策	3-5		
目的	対象	埋蔵文化財						新規/継続	継続			
	意図	適切に保存し、後世に継承していくとともに、歴史文化の理解を深める活用を図る						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理事業 ○広丘東通線整備事業に伴う内畑遺跡整理調査 ○協立病院駐車場整備に伴う五日市場遺跡整理調査				○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理事業 ○畑かん更新事業に伴う小段遺跡発掘調査 ○住宅団地造成に伴う床尾中央遺跡の発掘調査				○市内遺跡遺構確認調査 ○市内遺跡整理事業 ○畑かん更新事業に伴う小段遺跡整理調査 ○床尾中央遺跡の整理調査			
事業費・財源	決算額	(千円)	10,570	予算額	(千円)	31,226	計画額	(千円)	25,779			
	発掘作業員報酬等		9,539	発掘作業員報酬等		29,371	発掘作業員報酬等		20,000			
	重機借上料		352	重機借上料		500	重機借上料		500			
	印刷製本費		311	印刷製本費		80	印刷製本費		1,550			
	その他		368	その他		1,275	その他		3,729			
	人件費(会計年度任用職員)		0	人件費(会計年度任用職員)		0	人件費(会計年度任用職員)		0			
特定	374	一般	10,196	特定	19,308	一般	11,918	特定	14,921	一般	10,858	

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	総合評価	B
	有効性	4	高い		
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④	✓	②	①
	現状維持		③		⑤	
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>学芸員及び同等の知識のある職員の採用を進めている。</li> <li>開発に伴う埋蔵文化財包蔵地の確認に関して、利便性の向上及び当該業務の負担軽減のため、包蔵地地図をGISで公開することを検討している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の発掘調査を担当する予定だった学芸員が異動となったが、学芸員資格者の補充がなかったことにより、博物館所属の学芸員有資格者が1名のみとなり、今年度の埋蔵文化財の発掘調査をはじめとする専門業務は、本来マネジメントにあたる職員がプレイヤーとして携わっている状況で、博物館全体の運営にも支障をきたしている。</li> <li>出土遺物の整理室には空調設備がなく、室内温度が30℃以上になることも珍しくない状況で、改善の必要性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規採用職員と既存の学芸員との2名体制になることで、事務分担が図られるとともに、専門職員の良好な育成も図られる。</li> <li>開発に伴う埋蔵文化財包蔵地の確認については、すでにホームページ上に照会シートと電子メールアドレスを明記しており、電話による問い合わせ件数については減少傾向にある。今後もより適切な照会のあり方を検討実践する。</li> </ul>

第1次評価	・提案のとおり。	第2次評価	—
-------	----------	-------	---

事務事業名	埋蔵文化財保護事業	課名	平出博物館
-------	-----------	----	-------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価) (千円)

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
市単独事業		10,917		10,917		10,917
小段遺跡発掘調査		8,910		8,910		8,910
(報酬、謝礼、費用弁償、消耗品費等)				0		0
床尾中央遺跡発掘調査		5,952		5,952		5,952
(報酬、費用弁償、印刷製本費)				0		0
				0		0
				0		0
人件費(会計年度任用職員)				0		0
事業費合計		25,779	+0	25,779	+0	25,779
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	その他	書籍等売上代	60	60		60
	その他	埋蔵文化財発掘調査委託金等	14,861	14,861		14,861
	一般財源		10,858	+0	10,858	+0

○ 評価指標

評価指標(単位)	開発等に伴う包蔵地の確認(件)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		149	181	
実績値(事後評価)	320	324		
目標値		150	150	150
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・建築行為における法令遵守の認識が高まり、確認件数が増加しているものと考えられる。			
評価指標(単位)				
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				
(事後評価) 指標実績値の要因分析				

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発事業に伴い、埋蔵文化財包蔵地の有無を確認する業務を行った。</li> <li>・市道改良工事に先立つ内畑遺跡(広吉吉田)と槻井泉神社北遺跡(洗馬芦ノ田)の発掘調査を実施した。</li> <li>・五日市場遺跡(棧敷)の発掘調査の整理作業を行い発掘調査報告書を刊行した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発予定地等に対する埋蔵文化財包蔵地の確認等業務を324件実施した。</li> <li>・内畑遺跡と槻井泉神社北遺跡の発掘調査を予定期間内に実施することができ、埋蔵文化財の記録保存と開発事業の円滑な進捗に寄与することができた。</li> <li>・令和5年度に実施された五日市場遺跡の発掘調査の成果を発掘調査報告書として取りまとめ、地域の歴史を知る貴重な資料とすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発に伴う発掘調査を地域遺産の保存・継承のための貴重な機会ととらえ、その成果については出土品の展示公開や発掘調査の成果を取りまとめた発掘調査報告書により積極的に公開していく必要がある。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	平出博物館	職名	主査	氏名	石井 健郎	連絡先(内線)	5591
最終評価者	平出博物館長	氏名	小松 学	担当係長	氏名			

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名		本洗馬歴史の里運営事業				担当課	平出博物館			施策	3-5	
目的	対象	市民							新規/継続	継続		
	意図	洗馬地区独自の歴史文化の周知							会計区分	一般		
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○洗馬焼体験の実施				○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○洗馬焼体験の実施				○講座・企画展等の開催 ○施設の維持管理 ○洗馬焼体験の実施			
	決算額	(千円)	5,821	予算額	(千円)	7,194	計画額	(千円)	4,726			
	講師謝礼		96	講師謝礼		138	講師謝礼		138			
その他		2,253	LED照明リース料(4ヶ月分)		96	LED照明リース料(12ヶ月分)		288				
			その他		2,728	エアコン修理		1,616				
						その他		2,684				
事業費・財源	人件費(会計年度任用職員)		3,472		人件費(会計年度任用職員)		4,232		人件費(会計年度任用職員)			
	特定	180	一般	5,641	特定	186	一般	7,008	特定	186	一般	4,540

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	総合評価	C
	有効性	4	高い		
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	

今後の方向性							
成果	拡充		④		②	①	✓
	現状維持		③		⑤		
	縮小		⑥				
	休廃止	⑦					
コスト		皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<p>・洗馬焼を中心とした陶芸を学ぶ機会については、子どもを対象とした講座を積極的に実施している。</p> <p>・洗馬の歴史・文化に関する講座や企画展を実施している。県外から移住してきて活動している写真家の目を通した繊細な風景写真の展示会を行ったことで、これまであまり来館することの少なかった客層の方にもお越しいただけるようになった。</p>	<p>・洗馬地域を中心に地場産業として行われていた洗馬焼をはじめとする陶芸を学ぶ機会として陶芸教室を行い、復元された洗馬焼和兵衛窯などを活用して焼成作業を行っているが、今後窯の維持管理を行える人材の確保が困難となることが想定される。</p>	<p>・施設内のエアコンが経年劣化による故障で使用できなくなっているものもみられるため、利用者の利便性のためにも修繕する必要がある。</p> <p>・例年春先に行っている敷地内の樹木管理では、屋根上に堆積している落ち葉類などの処理も併せて行う必要性がある。</p>

第1次評価	・エアコン修理は実施を認める。見積書の金額に修正する。	第2次評価	—
-------	-----------------------------	-------	---

事務事業名	本洗馬歴史の里運営事業	課名	平出博物館
-------	-------------	----	-------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価) (千円)

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
講師謝礼		138		138		138
LED照明リース料(12ヶ月分)		288		288		288
エアコン修理		1,870	▲254	1,616		1,616
印刷製本費		177	▲20	157		157
その他		2,527		2,527		2,527
				0		0
				0		0
				0		0
人件費(会計年度任用職員)				0		0
事業費合計		5,000	▲274	4,726	+0	4,726
財源内訳	国庫支出金 (名称)			0		0
	県支出金 (名称)			0		0
	地方債 (名称)			0		0
	その他 入館料等	186		186		186
	一般財源	4,814	▲274	4,540	+0	4,540

○ 評価指標

評価指標(単位)	入館者数			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		1,404	1,484	
実績値(事後評価)	1,790	2,437		
目標値		2,000	2,100	2,200
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・訴求性の高い企画展や講座の計画的な実施と適切なPRを行うことにより、認知度が高まり来館者数の増加に結びついていると思われる。			
評価指標(単位)				
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				
(事後評価) 指標実績値の要因分析				

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会として釜井庵寺子屋塾2回、洗馬歴史講演会1回、多様なテーマ3回の企画展を開催した。</li> <li>・地域に根差した洗馬焼の陶芸文化の継承・振興のため、「子ども洗馬焼教室」、「七輪窯洗馬焼教室」を開催した。</li> <li>・地域に残る中世の妙義山城を活用した妙義山城見学会を開催した。</li> <li>・洗馬焼和兵衛窯の維持管理のための焼成業務や清掃業を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会には延べ99人の受講者があり、地域の歴史を知る機会を提供できた。</li> <li>・子どもや大人を対象とした陶芸教室には延べ53人の参加者があり、江戸時代から大正時代にかけて地域の産業として隆盛した洗馬焼などの陶芸に触れる機会を提供した。</li> <li>・江戸時代の洗馬焼の登り窯を復元した和兵衛窯で焼成を行うことで湿気抜きなどができ、登り窯の維持管理に努めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年は、洗馬焼を中心とした陶芸を学ぶ機会の創出に注力してきたが、今後は現在精力的に進められている『洗馬地区誌』の刊行に対し、地域に根差した博物館として協力していくことが大切である。</li> <li>・復元された登り窯の維持管理には市内の陶芸団体の協力が不可欠であるが、団体の高齢化もあり今後の窯の維持管理の手法について検討する必要がある。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	平出博物館	職名	主査	氏名	石井 健郎	連絡先(内線)	5591
最終評価者	平出博物館館長	氏名	小松 学	担当係長	氏名			

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	古田晁記念館諸経費				担当課	図書館			施策	3-5		
目的	対象	市民						新規/継続	継続			
	意図	国の登録有形文化財を保存・活用する。						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○文学サロンの開催 ○滂沱忌の開催 ○施設の維持管理				○文学サロンの開催 ○滂沱忌の開催 ○施設の維持管理				○文学サロンの開催 ○滂沱忌の開催 ○施設の維持管理			
	決算額	(千円)	1,834	予算額	(千円)	5,238	計画額	(千円)	1,229			
	講師謝礼		63	講師謝礼		80	講師謝礼		80			
庭園整備委託料		440	庭園整備委託料		440	庭園整備委託料		440				
光熱水費		173	光熱水費		178	光熱水費		192				
清掃委託料(記念館協力会)		120	清掃委託料(記念館協力会)		120	清掃委託料(記念館協力会)		120				
その他		479	その他		301	その他		397				
人件費(会計年度任用職員)		559	人件費(会計年度任用職員)		4,119	人件費(会計年度任用職員)						
特定		51	一般		1,783	特定		27	一般		5,211	
						特定		27	一般		1,202	

○事中評価

評価視点	妥当性	3	やや高い	総合評価	B
	有効性	3	やや高い		
	効率性	2	やや低い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	✓
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性								
成果	拡充		④		②		①	✓
	現状維持		③		⑤			
	縮小		⑥					
	休廃止	⑦						
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大				

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の新たな活用方法について検討するため、北小野地区の地域づくり計画ミーティングに参加し、地域住民や会議メンバーから活用案の聞き取りを行った。</li> <li>10月の古田晁文学サロン、滂沱忌に合わせた館内展示品の一部入替実施に向けて、テーマや内容を検討している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物全体の老朽化に伴い、展示棟の土蔵の壁の一部剥落や、入り口の門の屋根の一部崩落が起きているため、早急な対応が必要となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>古田晁記念館文学サロンは、今後も継続して実施することで、広く館の認知や来館者の増加につながるが見込めるため、予算は現状維持としたい。</li> <li>記念館協力会に委託している館内環境整備については、作業にかかる経費や資材調達費用等、必要最低限の予算で行っているため、予算は現状維持としたい。</li> <li>施設の維持管理のための補修費用は、定期的に予算計上する必要がある。</li> </ul>

第1次評価	・提案のとおり。	第2次評価	—
-------	----------	-------	---

事務事業名	古田晁記念館諸経費	課名	図書館
-------	-----------	----	-----

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価)

(千円)

項目	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後	
講師謝礼	80		80		80	
庭園整備委託料	440		440		440	
光熱水費	192		192		192	
清掃委託料(記念館協力会)	120		120		120	
印刷製本費【拡大】	80		80		80	
営繕修繕料	100		100		100	
その他	217		217		217	
			0		0	
人件費(会計年度任用職員)			0		0	
<b>事業費合計</b>	<b>1,229</b>	<b>+0</b>	<b>1,229</b>	<b>+0</b>	<b>1,229</b>	
財源内訳	国庫支出金 (名称)		0		0	
	県支出金 (名称)		0		0	
	地方債 (名称)		0		0	
	その他 資料等売却代	27		27		27
	一般財源	1,202	+0	1,202	+0	1,202

○ 評価指標

評価指標(単位)	入館者数			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		111	142	
実績値(事後評価)	359	251		
目標値		250	250	250
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・R5年度は御柱祭の影響で5月の来館者が増加したが、R6年度は地区の大きな行事がなく、図書館本館が長期休館だったため、情報発信が例年より少なく、来館者数が減少し目標値を下回った。			
評価指標(単位)				
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)				
実績値(事後評価)				
目標値				
(事後評価) 指標実績値の要因分析				

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>古田晁の命日である10月30日に古田晁の墓参ツアー「滂沱忌」を実施し、併せて「古田晁記念館文学サロン」を北小野公民館で開催した。</li> <li>行事に合わせて記念館展示品の一部入替を行った。</li> <li>古田晁記念館協力会に委託し、館内環境整備を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文学サロンでは太宰治賞受賞者で作家の西村亨氏、フリーライターの永江朗氏による講演会を行い、51人の参加があった。講演会の前に行った滂沱忌と両方参加して下さる方もいた。地元の方の参加も多かったため、北小野地区の皆さんに記念館を知ってもらう良い機会となった。</li> <li>文学サロン、滂沱忌に合わせて展示替えを行い、毎年参加をして下さる方にも改めて見学を楽しんでもらうことができた。</li> <li>記念館の環境整備では、来館者が気持ちよく館内を回っていただけるよう、草刈やぶどう棚の管理を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の施設の活用方法について方向性を検討するとともに、施設の耐震化や老朽化対策という課題を解決していく必要がある。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	図書館	職名	副館長	氏名	小松 久美	連絡先(内線)	4242
最終評価者	館長	氏名	矢澤 昭義	担当係長	副館長	氏名	小松 久美	

# 令和7年度 施策評価シート

## 1 施策の位置付け

基本戦略	B	共創循環	戦略分野	6	協働参画・連携・行政運営	ありたい姿	市民と行政がともに「自分事」ではじめる取組が、多様な人材や組織を引きつけ、共創が加速している
施策	6-1	地域を良くする活動に取り組む人や組織に情報や資源や仲間が集まってくる					

## 2 施策指標(KPI)

指標名	基準値 基準年度		達成値			目標値
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和8年度	令和8年度	
客観	まちづくりチャレンジ事業を実施し、自立運営している団体数	36団体 R4	41団体			46団体
	市民交流センター貸館利用率	73.2% R4	45.7%			80.0%
主観	市民が中心となったまちづくり活動が活発に行われていると感じる市民の割合	28.6% R5	26.8%			33.6%
ブランド	えんぱークを企画やイベント等を開くため利用したことがある市民の割合	36.0% R5	-			41.0%

## 3 施策を構成する事務事業

番号	事務事業名	担当課	事業費(千円)			今後の方向性	
			令和6年度	令和7年度	令和8年度	成果	コスト
1	市民交流センター管理諸経費(施設改修)	市民交流センター	1,246,157	18,700	-	現状維持	縮小
2	市民交流センター交流企画事業	市民交流センター	18,957	23,623	予算対応	現状維持	縮小
3	協働のまちづくり推進事業	市民交流センター	3,152	5,349	予算対応	現状維持	縮小

## 4 事中評価(事業構成の適正性)

優先する取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者が施設に求めるサービスや環境を把握するため、アンケートや意見を聴く準備を進めている。利用者の声を踏まえ、今後のサービス改善につなげる。</li> <li>中信3市合同で市民活動団体交流会を企画するなど、市民活動団体の活動内容の紹介の機会や、団体同士のつながりを作る場を増やしていく。</li> <li>青少年やシニア世代に向けた魅力ある企画を充実させていく必要がある。</li> </ul>
劣後・見直しする取り組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度実施した「市民交流センターへの自立・分散型エネルギー設備導入工事」により、省エネ化が進み成果をあげている。引き続き、電気使用量の削減に努めていく。</li> </ul>

## 5 事後評価

施策指標の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりチャレンジ事業補助金の制度周知により、年間を通じて20件の相談を受け付け、団体の活動支援や次年度の補助金応募に繋がる対応を行うことができた。今後もより重要な役割を担っていくことになる市民活動団体の育成は、各団体にきめ細やかな対応を行ってきたことで、自立し、活動を継続している団体も増え、新たに自立を目指す市民団体も育ってきている。</li> <li>市民交流センターへの自立・分散型エネルギー設備導入工事を長期休館して行ったため、貸館利用率については低下したが、省エネルギー化が進み、防災拠点としての機能が強化された。</li> <li>リニューアルオープンイベントに多くの来館をいただき、快適な施設として再スタートした施設を広く知っていただく機会となった。</li> </ul>
施策の定性評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民交流センターは、大きな社会変革のなかで多様化する地域課題の解決につながる活動や将来の地域づくりに資する人づくりの拠点として進化を求めながら運営してきた。</li> <li>団体に寄り添いながら相談を受けることで自立できる活動への意識付けと促進につながり、しおじりまちづくりフェスティバルの開催で、参加団体の取組を広く市民に発信することができ、市民公益活動をより身近に感じてもらう機会となった。</li> <li>大規模改修工事により、快適でより災害に強い施設になったことから、さらなる利用拡大に向け、他の団体との連携強化を進めるとともに、周知を行っていく必要がある。</li> <li>知の交流の拠点として、他の公共施設とも連携し、中心市街地活性化を共に目指し、複合施設としての強みを生かした運営が求められる。</li> </ul>

評価者	所属	交流文化部	職名	部長	氏名	上條 史生
施策担当課長	所属	市民交流センター	氏名	矢澤 昭義		

令和7年度 事務事業評価シート(ハード事業)

○実施計画

事務事業名	市民交流センター管理諸経費(施設改修)				担当課	市民交流センター				施策	6-1	
目的	対象	市民交流センター利用者						新規/継続	継続			
	意図	快適な市民活動拠点の整備						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○改修工事【R5繰越含む】 ・レジリエンス工事 ・工事監理				○改修工事 ・電話交換機設備更新				○改修工事 ・電気設備工事 ・消防設備工事 ・給排水設備工事			
事業費・財源	決算額	(千円)	1,246,157	予算額	(千円)	18,700	計画額	(千円)	0			
	工事費		1,226,159	工事費		18,700	工事費		0			
	監理委託料		19,998									
	特定	1,212,916	一般	33,241	特定	18,700	一般	0	特定	0	一般	0

○事中評価

評価視点	有効性	3	やや高い	総合評価	A
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	✓
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③	✓	⑤	
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
		皆減	縮小	現状維持	拡大	
コスト						

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が施設に求めるサービスや環境を把握するため、アンケートや意見を聴く準備を進めている。利用者の声を踏まえ、今後のサービス改善につなげる。</li> <li>・防火シャッターの蓄電池や電気錠の交換など、有事の際の安全確保を最優先に、安心・安全につながる修繕を実施している。修繕は優先順位を整理し、計画的に対応している。</li> <li>・昨年度実施した自立・分散型エネルギー設備導入工事により、省エネ化が進み成果をあげている。引き続き、電気使用量の削減に努めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の落雷により故障した電話交換機については、9月10日に更新工事が完了し、本庁等との内線電話の不通は解消された。</li> <li>・今後も異常気象による豪雨や落雷等の発生が懸念されることから、施設や電子機器への影響について注視していく必要がある。</li> <li>・建物全体の劣化が進んでおり、耐用年数を迎えた設備の更新や、突発的な修繕への対応が今後も必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改修工事の終了により入館者数が回復している。今後は、1階テナントの活用を含め、中心市街地の活性化や館内の賑わい、快適さ・居心地の良さの向上が課題となってくる。</li> <li>・1階エントランスホールのテーブルやイスは大人向けが多いため、乳幼児を含め誰もが利用しやすい家具への更新が必要であることから、リサイクル品の募集等も検討している。</li> <li>・初夏以降、日中30℃を超える日や湿度の高い日が多いため、館内で快適に過ごせるよう、温度・湿度管理を含めた環境づくりが求められている。</li> </ul>

第1次査定	・長期修繕計画の策定により、今後20年間に実施すべき施設の改修内容が明確となったことから、施設の現状等を鑑みつつ、実施すべき改修工事の精査を継続すること。	第2次査定	・ライフサイクルコストを常に意識した修繕計画と執行の管理を行うこと。 ・非常に多額であるため、市民交流センターが大規模修繕に投資する価値があるという説明責任を果たす施設運営とともに、管理組合の合意を図ること。
-------	---	-------	---

○ 実施計画補正要求

(千円)

年度	概要		項目(起債対象に※)		計画額	補正要求額	補正後額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後	
令和8年度	○改修工事 ・電気設備工事 ・消防設備工事 ・給排水設備工事	電気設備工事		※	2,000	▲2,000	0		0		0	
		消防設備工事		※	800	▲800	0		0		0	
		給排水設備工事		※	2,600	▲2,600	0		0		0	
							0		0		0	
							0		0		0	
		事業費合計			5,400	▲5,400	0	0	0	0	0	
	財源内訳	国庫支出金	(補助金名)					0		0		0
		県支出金	(補助金名)					0		0		0
		地方債1	公共施設等適正管理推進事業債	90%	3,800	▲3,800	0		0		0	
		地方債2	(地方債名)					0		0		0
地方債3		(地方債名)					0		0		0	
その他		えんぱーく区分所有者負担金			458	▲458	0		0		0	
一般財源					1,142	▲1,142	0	0	0	0	0	

○事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<p>・市民交流センターへの自立・分散型エネルギー設備導入工事を行った。</p> <p>・工事による休館期間中、塩尻市振興公社との協定を通じて、ウイングロードの共有スペース及びcore塩尻(土日祝日)を代替施設として確保し、利用者の学習や交流の機会を継続して提供した。</p>	<p>・自立・分散型エネルギー設備導入工事では太陽光発電設備と蓄電設備の導入、照明器具のLED化、空調設備更新を実施した。これにより、省エネルギー化が一層進み、防災拠点としての機能が強化された。</p> <p>・代替施設として利用したウイングロードの共有スペースには連日多くの人が集い、core塩尻は、4か月半で2,670人が利用するなど、にぎわいのある空間となった。</p>	<p>・今後も利用される施設となるためには、競合施設との差別化や利用者のニーズにより適したサービスの提供が必要となる。</p> <p>・建設から16年目を迎え、機器類の更新や、劣化等による修繕が発生してきているため、計画的な機器類の更新と事前保全管理としての修繕を実施していく必要がある。</p>

○評価指標

評価指標(単位)	工事箇所数			
	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		0	0	
実績値(事後評価)		3		
目標値		1	1	3
(事後評価) 指標実績値の要因分析	<p>・令和7年度以降の工事箇所は、策定した長期修繕計画やえんぱーく管理組合との調整等により、変更となる可能性がある。</p>			

作成担当者	交流文化部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主任	氏名	吉田 実子	連絡先(内線)	4253
最終評価者	市民交流センター長	氏名	矢澤 昭義	担当係長	市民活動支援係長	氏名	上條 さやか		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	市民交流センター交流企画事業				担当課	市民交流センター			施策	6-1		
目的	対象	市民全体、事業者、各種団体、市外からの来館者						新規/継続	継続			
	意図	新しい人々や多くの人々が絶えず行きかう場を創出し、知恵の交流を通じた人づくりを図る。						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○貸館受付と証明発行業務 ○センターの協同による運営 ○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施				○貸館受付と証明発行業務 ○センターの協同による運営 ○5つの重点分野を生かした融合事業等の実施 ○施設の機能を活かした事業実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施				○貸館受付と証明発行業務 ○センターの協同による運営 ○施設の機能を活かした事業実施 ○市民営提案事業から定着した交流企画イベントの継続実施 ○予約システムの更新			
	事業費・財源				事業費・財源				事業費・財源			
決算額 (千円)		18,957		予算額 (千円)		23,623		計画額 (千円)		3,394		
IT講座運営事業委託料		1,095		IT講座運営事業委託料		0		市民営提案事業(交流企画)		1,505		
市民営提案事業(交流企画)		1,428		市民営提案事業(交流企画)		1,439		中心市街地活性化イベント負担金		300		
その他		974		中心市街地活性化イベント負担金		300		その他		1,589		
人件費(会計年度任用職員)		15,460		人件費(会計年度任用職員)		19,973		人件費(会計年度任用職員)				
特定	479	一般	18,478	特定	182	一般	23,441	特定	192	一般	3,202	

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	総合評価	B
	有効性	4	高い		
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	✓
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③	✓	⑤	
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト		皆減	縮小	現状維持	拡大	

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども向け講座を継続するとともに、地域貢献活動を行う企業との連携により、シニア向け「ポイストレーニング講座」等を新たに企画した。</li> <li>市公式LINE、ホームページ、SNSを活用し、イベント開催告知や開催中・終了後の情報発信も強化。動画や写真・参加者の声を取り入れ、工夫を凝らした広報を実施した。</li> <li>壁柱利用促進として、絵画アーティストに加え、新たに写真家による写真展を開催。美術館のような魅力的な空間作りを実施した。</li> <li>施設利用者の利便性向上のため、来年度の公共施設予約システム更新に向け、課題整理や利用者ニーズの把握、既存システムの改善点の検討を進めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な企画を続けて実施することで、開催準備から次回準備までのサイクルが短く、開催後の振り返りが十分でない場合がある。短期間でも、効果的にフィードバックを活用できる仕組みを検討していきたい。</li> <li>イベント開催ごとに必要となる人員体制の確保も課題である。職員間で協力し合いながら対応しているが、窓口業務やシフトの都合で人員が不足する場合もあるため、今後は、市民交流センターのみならず、図書館やえんぱーく入居部署とも連携し、共同で企画・運営できるような体制を検討する必要がある。</li> <li>子育て世代に加え、青少年やシニア世代も参加しやすい講座、交流事業の充実が引き続き求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>えんぱーくは青少年(中学生)やシニア世代の利用が多いが、これらの世代を対象としたイベントが十分とは言えない。利用実態に即した事業展開を図り、さらに青少年やシニア世代にとっても魅力ある企画を充実させていく必要がある。</li> <li>青少年向けには、学習エリアや市民サロンを日常的に利用している中学生を対象に、大学生や講師を招いた交流イベントを検討している。学習法や大学生活についてリアルな声を届けることで交流を深め、学習意欲や進路意識の向上につながる場としたい。</li> <li>シニア世代向けには、食育室を活用したお菓子作り教室などを検討している。実習形式の講座により楽しみながら学ぶ機会を提供し、交流や健康づくりにも寄与することを目指す。</li> <li>今後も世代ごとの関心に応じたプログラムを組み合わせ、地域全体のつながりを深める取り組みを進めていきたい。</li> </ul>

第1次評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民交流センター管理運営方針の見直しを進めていることから、収益の向上を含め、施設の価値を高めるイベントの実施を目指し、自主事業の抜本的な見直しを行うこと。</li> <li>現在策定中の運営方針に沿った自主事業の実施とするため、シニア世代向け料理教室の実施は見送る。また、参加者数が伸び悩む哲学対話イベントについては廃止とする。</li> </ul>	第2次評価	—
-------	--	-------	---

事務事業名	市民交流センター交流企画事業	課名	市民交流センター
-------	----------------	----	----------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価)

(千円)

項目		計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
市民営提案事業(交流企画)		1,505		1,505		1,505
中心市街地活性化事業		300		300		300
講師謝礼		588	▲145	443		443
消耗品費		506	▲6	500		500
賄材料費【新規】		99	▲99	0		0
費用弁償		338	▲86	252		252
その他		394		394		394
				0		0
人件費(会計年度任用職員)				0		0
事業費合計		3,730	▲336	3,394	+0	3,394
財源内訳	国庫支出金	(名称)		0		0
	県支出金	(名称)		0		0
	地方債	(名称)		0		0
	その他	講座受講料等	192	192		192
	一般財源		3,538	▲336	3,202	+0

○評価指標

評価指標(単位)	貸館利用者人数(人)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		17,799	179,351	
実績値(事後評価)		39,547		
目標値		58,000	60,000	60,000
(事後評価)指標実績値の要因分析	・市民交流センターは改修工事のため、約半年間にわたり会議室などの貸出ができず、利用者数は目標を大きく下回った。しかし、再オープン後は利用者が徐々に戻ってきており、今後も引き続き利便性の向上に努め、さらなる集客を図っていく。			
評価指標(単位)	講座等参加者満足度(%)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		98.4	98.1	
実績値(事後評価)	98.7	90.4		
目標値		90.0	92.0	92.0
(事後評価)指標実績値の要因分析	・2月開催のリニューアルイベントには多くの来場があり、一部ブースで定員を超え参加できないなど、混雑状況が満足度に影響した可能性がある。一方で、集客力の向上やイベントへの関心の高さが示されたとも言え、今後の運営改善や会場規模の見直しにつなげる好機と捉えられる。			

○事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTルームを活用し、「ばそこん基礎講座」を17講座実施。</li> <li>子育て世代の支援や青少年の交流促進など、幅広い層向けの講座・イベントを展開。五つの重点分野を融合した取組として10事業15回開催した。</li> <li>中止となった「ちびてつ」は、外部講師の協力により、新たに「wacco」として開催することができた。</li> <li>市民提案による交流企画事業として「こどもしおじり」を開催し、専門家や実行委員会と連携した運営体制のもとで実施した。</li> <li>大規模改修工事を経た再開を記念し、リニューアルオープンイベントを企画・実施した。</li> <li>貸館業務や証明書交付などの窓口対応においては、迅速かつ丁寧な対応を徹底し、利用者からの信頼を維持した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ばそこん基礎講座」は、デジタルスキルの習得支援として成果を上げた。</li> <li>講座・イベントに年間延べ5,922人が参加し、学びと交流を通じて新たな知恵の創出を促進。多世代の参加や地域内の連携にもつながった。</li> <li>哲学対話イベントにより、子どもたちが思考を深め、さまざまな考えに触れ、哲学対話を楽しむ場を再び提供することができた。</li> <li>「こどもしおじり」に、147人が参加。約90人の専門家や実行委員会の協力のもと、子どもたちが主体的に社会や経済の仕組みを学ぶ貴重な機会となった。</li> <li>リニューアルオープンイベントは、2日間で50団体が出展し、4,552人が来場。えんぱーくの新たな魅力を広く発信する盛況な催しとなった。</li> <li>壁柱利用促進事業として、絵画展や観光情報の映像投影を実施。美術や地域への関心を高めるとともに、壁柱の活用促進と認知向上に寄与した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世代への応援事業や子ども向け講座の継続に加え、青少年世代やシニア世代も参加しやすい講座や交流イベントの充実が課題である。世代を超えた交流の場を創出し、地域全体のつながりを深める取り組みが必要である。</li> <li>イベント開催において、市ホームページやSNSを活用したタイムリーで魅力的な発信による広報強化が必要である。市民の関心を高め、参加促進につなげる工夫が必要である。</li> <li>利用者のさらなる利便性向上を目指し、貸館の支払い方法のオンライン化や、市民サロン・壁柱予約の電子化が課題である。令和8年度のシステム更新に向けて、現状の課題整理と具体的導入検討を進める必要がある。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主任	氏名	塩原 理奈	連絡先(内線)	4221
最終評価者	市民交流センター長	氏名	矢澤 昭義	担当係長	市民活動支援係長	氏名	上條 さやか		

令和7年度 事務事業評価シート(ソフト事業)

○実施計画

事務事業名	協働のまちづくり推進事業				担当課	市民交流センター		施策	6-1			
目的	対象	市民、市民公益活動団体						新規/継続	継続			
	意図	市民や市民公益活動団体等の主体性・自主性の向上や活動の活性化、市民交流センターでの事業の多様化を目指す。						会計区分	一般			
年度別 事業内容 (手段)	令和6年度				令和7年度				令和8年度			
	○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援 ○まちづくりチャレンジ事業補助金 ○中間支援組織による支援 ○講演会、研修会の開催 ○市民公益活動団体等の情報発信				○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援 ○まちづくりチャレンジ事業補助金 ○中間支援組織による支援 ○講演会、研修会の開催 ○市民公益活動団体等の情報発信				○市民公益活動団体等の継続的な事業運営及び団体の自立支援 ○まちづくりチャレンジ事業補助金 ○中間支援組織による支援 ○講演会、研修会の開催 ○市民公益活動団体等の情報発信			
	決算額 (千円)	3,152	予算額 (千円)	5,349	計画額 (千円)	4,777						
	まちづくりチャレンジ事業補助金	700	まちづくりチャレンジ事業補助金	2,300	まちづくりチャレンジ事業補助金	2,300						
市民活動支援業務委託料	1,492	市民活動支援業務委託料	1,493	市民活動支援業務委託料	1,493							
市民営提案事業(まちづくり)	594	市民営提案事業(まちづくり)	594	市民営提案事業(まちづくり)	220							
その他	366	その他	962	その他	764							
人件費(会計年度任用職員)	0		人件費(会計年度任用職員)	0		人件費(会計年度任用職員)	0					
特定	0	一般	3,152	特定	0	一般	5,349	特定	0	一般	4,777	

○事中評価

評価視点	妥当性	4	高い	総合評価	A
	有効性	4	高い		
	効率性	3	やや高い		

評価視点 1:低い 2:やや低い 3:やや高い 4:高い

【効率性の評価視点】該当する項目が多いほど評点は高くなる

①	他の実施主体を活用しても、成果維持のままコスト削減ができない	✓
②	単位当たりのコストが前年度よりも良化している	
③	事務改善、人員見直しをしてもコスト削減の余地がない	✓
④	コスト全体に占める市の負担割合を下げる余地がない	✓
⑤	部分的に廃止・縮小すると成果を達成できない	✓

今後の方向性						
成果	拡充		④		②	①
	現状維持		③	✓	⑤	
	縮小		⑥			
	休廃止	⑦				
コスト	皆減	縮小	現状維持	拡大		

○事中評価(予算編成に向けた定性評価)

前年度の課題や新たな取組に関する進捗状況	当年度生じている課題等	新年度の改善・改革案(予算要求等)、段階的に見直していく事項
<p>・まちづくりチャレンジ事業補助金制度の周知について、庁内関係部署との打ち合わせ時に周知を行ったり、これまでのチャレンジ事業補助金を活用した団体の取り組みがPRになったことにより、上半期の相談件数は6件、4団体となった。また、今年度は前年度から継続して申請した団体を含む7団体が採択され、現在活動している状況である。</p> <p>・市民活動団体の活動内容を紹介する機会を増やすこと、団体同士のつながりを作る場として、毎年開催しているまちづくりフェスティバルを11月に企画している。また、今年度初めて3市合同市民活動団体交流会(塩尻、松本、安曇野)を企画し、12月開催に向けて準備を進めている。</p>	<p>・まちづくりチャレンジ事業補助金制度の周知により、市民活動団体や個人からの相談件数は年々増加しているが、取り組み分野に関わる行政担当者が制度を把握していないことがあるため、積極的にこちらから制度の説明を行うとともに、市民活動団体等との関係も構築していく必要がある。</p>	<p>・まちづくりチャレンジ事業補助金は、市民への周知は進んでいるものの、これまで活用している団体の中には学生主体の団体はほとんどなかった。今後は、地元高校や、連携して事業を行っている信州大学の学生に対して制度の説明を行い、学生主体の市民活動団体の発足促進や、若年層における市民活動への意識醸成を図っていく。</p> <p>・新年度は、ステップアップ3年目を迎えるまちづくりチャレンジ事業団体が今年度と同数になる見込みで、事業補助金の要求額も同額となる見通し。</p> <p>・今年度初めて開催を予定している3市合同市民活動団体交流会については、今後も毎年継続して実施できるよう、担当者間の関係を深めるとともに、内容の充実と発展を図っていく。</p>

第1次評価	・協働のまちづくり推進委員会については、半日開催3回分のみの予算計上とする。	第2次評価	—
-------	--	-------	---

事務事業名	協働のまちづくり推進事業	課名	市民交流センター
-------	--------------	----	----------

○ 令和8年度事業費、財源内訳(事中評価) (千円)

項目	計画額	1次査定	1次査定後	2次査定	2次査定後
まちづくりチャレンジ事業補助金	2,300		2,300		2,300
市民活動支援業務委託料	1,493		1,493		1,493
市民営提案事業(まちづくり)	220		220		220
協働のまちづくり推進委員会委員報酬	212	▲121	91		91
市民交流センター市民営研究会委員報酬	101		101		101
消耗品費	210		210		210
その他	439	▲77	362		362
			0		0
人件費(会計年度任用職員)			0		0
事業費合計	4,975	▲198	4,777	+0	4,777
財源内訳	国庫支出金 (名称)		0		0
	県支出金 (名称)		0		0
	地方債 (名称)		0		0
	その他 (名称)		0		0
	一般財源	4,975	▲198	4,777	+0

○ 評価指標

評価指標(単位)	まちづくりチャレンジ事業実施団体数(団体)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		3	7	
実績値(事後評価)	8	4		
目標値		4	10	10
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・市民交流センターの改修工事で会場が使えないことを理由に、4団体が申請を見送ったが、申請を悩んでいた団体には別会場の使用を提案するなどサポートを行った結果、4団体が申請し、目標値を達成することができた。			
評価指標(単位)	研修会や講座等の開催数(回)			
年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
中間値(事中評価)		10	3	
実績値(事後評価)	15	15		
目標値		13	14	15
(事後評価) 指標実績値の要因分析	・講座等の開催を委託している団体と毎月打合せを重ね、年間を通して計画的に開催することができた。目標値を達成するとともに、参加者からも高い満足度を得ることができた。			

○ 事後評価

取組内容	結果・成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりチャレンジ事業補助金の交付及び団体の育成支援を行った。(団体、事業の充実度に応じた段階的交付:4団体 700千円)</li> <li>・NPO法人などが団体の活動をPRする場を設けるとともに、市民活動を実践するためのノウハウ等を学ぶための講座を6回開催した。</li> <li>・市民活動団体の日ごろの活動を広く市民に周知するため、「しおじりまちづくりフェスティバル」を3月に開催した。</li> <li>・市民による市民のための事業実施として、「市民大学プラットフォームを生かした市民講座」を9回開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりチャレンジ事業補助金の交付を4団体が受け、それぞれ独自事業を展開した。</li> <li>・市民活動支援業務として、しおじりまちづくりフェスティバルを開催したことで、市内外で活動する市民活動団体同士の交流が促進され、情報・ノウハウの共有を通じて、各団体の活動の活性化が期待される。あわせて、参加団体の取組を広く市民に発信することができ、市民公益活動をより身近に感じてもらう機会となった。</li> <li>・まちづくりチャレンジ事業補助金の制度周知により、年間を通じて20件の相談を受け付け、団体の活動支援や次年度の補助金応募に繋がる対応を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も引き続き、まちづくりチャレンジ事業補助金制度の積極的な周知を行うとともに、活動を希望する団体等が気軽に相談できる機会を工夫して設ける必要がある。あわせて、関係部署と築いた関係を活かして迅速に連携し、新規申込の促進や活動団体の増加・育成を目指していく。</li> <li>・市民活動団体の活動人数の確保や事業拡大のため、活動紹介の機会を増やすことや団体同士のつながりを強化する必要がある。</li> </ul>

作成担当者	交流文化部	市民交流センター	市民活動支援係	職名	主任	氏名	唐澤 敏樹	連絡先(内線)	4251
最終評価者	市民交流センター長	氏名	矢澤 昭義	担当係長	市民活動支援係長	氏名	上條 さやか		